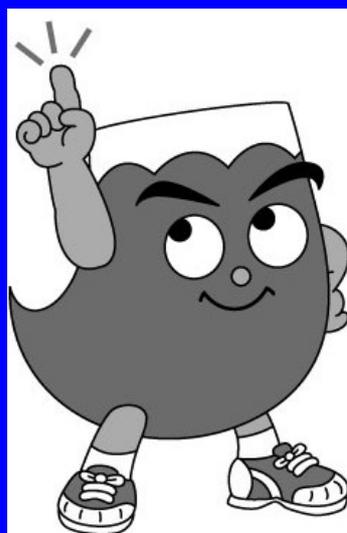


人づくり 実践事例集



2009

静岡県

はじめに

静岡県では、平成10年7月に「21世紀を担う人づくり」について検討する「人づくり百年の計委員会」を設け、平成11年10月に「意味ある人をつくるために」と題した提言をいただきました。

提言では、「何かができる人」「精神的に自立している人」「思いやりのある人」を総称した「意味ある人」をめざす人間像とし、人づくりの柱として、家庭では「美しく挨拶しよう」「美しく歩こう」「美しく話そう」を、学校では「きれいな学校」「気持ちのいい子ども」「頼もしい先生」を、社会との関わりでは「自分を磨く」「自然と生きる」「人と出会う」を挙げています。

静岡県ではこの提言を基本理念として「人づくり」を推進し、今年10年目を迎えました。これまでの県の取組や、地域・団体等の実践事例については、毎年広報紙や事例集を作成し、人づくり推進員や人づくり事業に参画していただける県民の皆様への配布や、静岡県のホームページ上での公開を通して、情報の提供に努めてきました。

このたび、平成20年度の県の施策や地域での実践事例を中心に、「人づくり実践事例集 2009年版」を作成いたしました。

編集に当たっては、昨年度までのものと比べ、1事例あたりの記述内容を増やすと共に、地域や団体の活動を中心に据え、より使いやすい事例集にするよう心がけました。

この冊子が、県民の皆様の人づくりについての興味や関心を高め、“意味ある人”を再認識し、各地域で人づくり実践活動が繰り広げられるための一助となることを願っております。

なお、地域での実践活動の取材に快く御協力いただいた各地域活動団体や学校の関係者の皆様には深く感謝いたします。

また、本冊子に掲載した「人づくりちょっといい話」は、『午前8時のメッセージ99話』（草柳大蔵著 静新新書 平成21年発行）から引用させていただきました。快く引用をお許しくくださった静岡新聞社に深く感謝いたします。

平成21年5月

県民部長
丸山 康至

目 次

I 人づくり実践事例

(1) 職人が語る「人づくり」～「何かができる」を究めた人が心がけてきたこと～	1
【静岡県技能マイスター】	
(2) 富士宮人づくり講座～市内著名人の生き方に学ぶ～	3
【富士宮人づくりの会（富士宮市）】	
(3) 通学合宿「小島ほうもう舎」～地域の子どもは地域で育てる～	5
【小島ほうもう舎実行委員会（静岡市）】	
(4) 挨拶運動を通して地域の人づくりを～浜松に朝の元気な風をふかそう～	7
【浜松市倫理法人会】	
(5) 「6つのあいさつ」を地区全体で推進～公民館を中心とした徳育推進～	9
【袋井市立浅羽東公民館】	
(6) 地域の青少年声掛け運動～“声掛け”で変わっていく社会がきっとある～	11
【県教育委員会青少年課】	
(7) 「人づくりの場」としてのキャンプ	13
【県立朝霧野外活動センター】	
(8) 小学生のキャンプを大学生が企画・運営	15
【静岡県立大学リトルワールドキャンプ実行委員会】	
(9) 地域の“おやじ”が中心となり、子どもたちに体験の機会を提供	17
【おやじ倶楽部（菊川市）】	
(10) 「勉強」「スポーツ」「こころ」を柱に、地域で子どもたちの健康な体と心を育む	19
【徳倉キッズクラブ（三島市）】	
(11) “こどもは遊んで育つ”～こどもが育つ環境づくり～	21
【NPO 法人天城こどもネットワーク（伊豆市）】	
(12) 中学生によるベビーシッター・ボランティア～乳幼児のいる家庭を中学生が訪問～	23
【片浜地区社会福祉協議会（沼津市）】	
(13) 関係団体・個人のネットワークを構築し、子どもの読書環境向上に努める	25
【藤枝子どもと本をつなぐ会（藤枝市）】	
(14) 職場、家庭、地域における人づくりを進める「コミュニティホスピタル」	27
【甲賀病院（焼津市）】	
(15) 「立ち居振る舞い」を学ぶ授業～「茶道」「華道」の時間～	29
【焼津高等学校（焼津市）】	

II 資料編

(1) 人づくりちょっといい話	31
『意味ある人』を体現した人(31) / 『意味ある人』になりにくい状況(32) / 人を浴びて人となる(33) / 子どもは外で遊んで、汗をかいて、ボタンと眠る(34) / 踏み込んで引っ張り出す教育(35) / 声掛けの効用(36) / 挨拶は心の定期預金(37) / 子どもを誉めるタイミング(38) / お母さんと赤ちゃんの目の距離(39) / 子どものゴールを考える(40)	
(2) 静岡県の人づくり～意味ある人をつくるために～	41

人づくり実践事例

〈職場における人づくり〉

職人が語る「人づくり」

～「何かができる」を究めた人が心がけてきたこと～

◆静岡県技能マイスター「しずおかの匠」

・認定者は平成18年度11人、19年度8人、20年度6人。業種は、造園、左官、和洋服仕立、料理、煙火製造など多岐にわたる。

▼静岡県では、優れた技能を有し、後進の指導・育成に尽力している現役の技能者を「静岡県技能マイスター」として認定しています。現在25人のマイスターが県内で活動しています。いずれも全国的にその名を知られた方ばかりです。一流の技をもつ技能マイスターの皆さんが、どんなことを考えて仕事に臨んでいるのか、どのようなことを意識して生活しているのかを知ることは、人づくりを考える上で大いに参考になるはずです。

▼平成20年11月に袋井市で行われた「ものづくりフェスタ in 袋井」の会場を訪れ、3人の技能マイスターの皆さん（名倉孝さん、澤元教哲さん、佐次本武司さん）に、親方から教わったことや弟子に説いていることについて、お話を伺いました。

名倉 孝さん（鬼瓦師）

～“本物がわかる人”にほめられるような人になりなさい～

○江戸末期頃から鬼瓦職人を世襲で受け継ぎ、4代目です。父からは「仕事を盗め」と言われ、父である親方の技を目で見て憶えるしかありませんでした。20才の頃、菊水模様の鬼瓦を作り、お客様に買っていただいた時の喜びは、74歳になった今でも忘れません。とてもうれしかったです。それ以後、仕事が一層楽しくなりました。

○私は一つ一つの仕事に魂を込めて鬼瓦を作っています。最近は建築業界もコストダウンが進み、なかなか私の手作りの鬼瓦を使用していただくことができませんが、私は**自分の仕事に誇りをもっています**。売り上げが無いからといって安売りはいたしません。私の信念です。

○父からはいつも「目の利く職人になれ！金もうけのことは考えるな！」、そして母からは「100人の馬鹿にほめられるよりは、利口な1人にほめられる人になれ！」という言葉をよく言われました。職人には、職人氣質や「伝統を守る」という信念を持って欲しいと思っています。伝統的なものがわかっていないと新しいこともできません。



（なぐら たかし）

昭和24年 三代目鬼秀のもとに弟子入り。平成13年厚生労働大臣表彰 卓越した技能者（現代の名工）受賞。平成14年黄綬褒章受章。



「笑った鬼瓦」は、名倉さんが考案したものです。「目がものを言う」ことを良く表した作品です。

澤元教哲さん（宮大工）

～弟子を育てるために必要なことは、「時間とチャンスを与える」こと～

○「日常の生活がきちんとできないと、仕事はできない」と、親方から厳しくしつけられました。例えば、食事の時には「まず親方に盛りつけること」「しゃもじの使い方、ごはんの盛りつけ方



(さわもと みちのり)

平成 15 年 厚生労働大臣表彰
卓越した技能者(現代の名工)受
賞。平成 16 年黄綬褒章受章。現
在建築中の神社は、「1000 年もた
そう」を合い言葉に、鎌倉時代の
建築様式を用いて、釘を使わずに
組み立てている。



かんなくず
はサラン
ラップより
薄いのだ
そうです。

は教えられたとおりに行うこと」「一度箸をつけたものは絶対残すな。残すならはじめから手をつけるな」などと言われました。掃除についても「隅からきちんと行うこと」「片づけができない人は仕事の段取りができない人だ」と言われてきました。現場がきれいかどうかで、その人の仕事ぶりがわかります。

- 若い職人には「あいさつをしっかりしよう」と言っています。「おはよう」「こんにちは」といった言葉に「今日はいい顔しているね。」「今日は具合悪いの？」などとひと言添えて話すことを私は「あいさつ」ととらえています。そして、他人より先にあいさつをすること。それができれば何事もうまくいくと思っています。
- 「見て覚えろ」というのは、全く教えないということではなく、自分で覚えようとして真剣に見ることが大切だということです。真剣に見たうえで質問をしてきた者にはアドバイスをします。教えてもらうのを待つのではなく、自分で覚えようという気持ちがなければ教えても技術は身につかないからです。
- 弟子を育てるために必要なことは、「時間とチャンスを与えること」です。自分の力を試す機会を与え、経験を積ませることで、いつ、どこで、どんな仕事をやれと言われてもいいような技術・心の準備ができるし、仕事に対する責任感も増します。

佐次本武司さん（木製建具製造工）

～「自分で手入れをした道具を使って、自分の手で作る」という基本を忘れない～

- 建具に「組子（くみこ）」とよばれる細かい部品をはめこみ、桜や富士山の絵を描いていく作業を行います。図面は作らず、自分の頭の中で考えながらやっています。細かい作業ですが、自分にしか解けないパズルを解くようなもので、充実感があります。
- 細かい部品が多いので、組み方が少しでもずれると全体のバランスが悪くなります。親方から「かんなくず1枚分長い」などと言われ、試行錯誤しながら技を磨きました。
- 道具の手入れについてはうるさく言われました。刃物は一晩空気にさらすだけで切れ味は変わるので、前日に手入れしても「使う直前には必ず研ぎ直せ」と親方に言われました。便利な電動工具もありますが、若い職人に対しては、自分で手入れした道具を使って自分の手で作ることができるまでは、電動工具を使わせないよう指導しています。



(さじもと たけし)

平成 7 年 第 14 回全国技能グ
ランプリ第1位・労働大臣賞受
賞。静岡県建具展示会では、
県知事賞を3度受賞している。

1枚1枚の戸に細かい組子
が施されています。



人づくりちよつといい話『意味ある人』を体現した人」もご覧ください。(→p31)

〈地域における人づくり〉

富士宮人づくり講座

～市内著名人の生き方に学ぶ～

◆富士宮人づくりの会（富士宮市）

・県が委嘱する人づくり推進員が、地域の行政や団体と連携し、人づくり活動を展開

▼富士宮市では、市内在住の人づくり推進員、青少年健全育成関係者、子育て支援関係者、まちづくり関係者などによる「富士宮人づくりの会」が平成20年に発足しました。各団体間の情報交換や活動の連携を通じて、地域における人づくりに貢献することを目的としています。同年秋には、会として初めての事業である「富士宮人づくり講座」（全5回）を開催しました。講座の内容や参加者の反応等について、会長の増田恭子さん(人づくり推進員)にうかがいました。



増田恭子さん

どのような活動をしているのですか？

○富士宮市では、平成18年に、市内在住の人づくり推進員、青少年健全育成関係者、子育て支援関係者、まちづくり関係者などが「人づくり情報交換会」を結成し、定期的に各団体間の活動の紹介や情報交換を行っていました。メンバーは次のような方々です。

- ・富士宮市在住の人づくり推進員
- ・子育てサークル育成サポーター
- ・青少年育成アドバイザー
- ・市子ども会連合会役員
- ・NPO法人あそび子育て研究協会
- ・地域コーディネーター
- ・親業訓練インストラクター
- ・主任児童委員
- ・富士宮市教育委員会（事務局）

○回を重ねるうち、「地域における人づくりに関わるもの同士、互いの得意分野やネットワークを生かして具体的な活動を行いたい」という意見が多く出されるようになったことから、会の名称を「富士宮人づくりの会」と改め、初事業として富士宮市と共催で「富士宮人づくり講座」を企画しました。市内で活躍している方に、人づくりへの思いや、自分の人生に影響を与えた体験談を語っていただくことで、市民の皆さんが自分を見つめ、一歩前に進む気持ちを持ってくれることを目的としたものです。



それぞれの得意分野を生かし、活発に活動する富士宮人づくりの会の皆さん

○平成20年度は、平成20年10月から平成21年2月にかけて、次の5人をお招きしました。毎回約40人の市民の皆さんが参加してくれました。また、地元紙(岳南朝日新聞)の協力を得て、講座の様子を毎回紹介していただきました。

	講師	役職等		講師	役職等
1	佐野 敬祥氏	富士宮市教育長	4	村松 雅子氏	富士宮市文化連絡協議会顧問
2	田中恵理華氏	平成18年度ミス富士山	5	小室 直義氏	富士宮市長
3	長谷川浩之氏	富士宮市商工会議所会頭			

※第5回終了後、交流会を開催

講座の様子や反応はどのようなものでしたか？

○第1回は、富士宮市教育長の佐野敬祥さんが、「出会いに学ぶ人生」と題し、教師としての自らのあり方に大きな影響を与えた先輩教員や児童生徒のエピソードを披露しながら、「強制的に知識を詰め込むのではなく、子どもの『求める力』を引き出すことが大事です。」「**家庭でも職場でも、声を掛け合って良い“風土”をつくっていくことが人づくりの基本です。**」と訴えました。講話の後、グループを作ってひとりひとり感想を述べ合う「**シェアリング**」が行われ、80歳の

女性は「私も地域の子どものために声を掛けるなど、できることから人づくりにかかわりたい」と話していました。



参加者は20代から80代まで幅広い



熱く語る講師の佐野さん



講演後のシェアリング。予定時間をオーバーする班も・・・。

○第2回は、元ミス富士山の田中恵理華さんが、「富士山と私」と題し、高校時代のホームステイ体験を機に自分の生き方を真剣に考え始めたことや、ミス富士山の名に恥じないようこれからも故郷である富士宮市のために尽くしたいという決意を語りました。

○富士宮人づくりの会の尾駒さんからこの様子を聞いた市立富士根南中学校は、元ミス富士山で卒業生でもある鈴木絵美さんと石川琴巳さんの2人を招き、「富士山を世界遺産に」をテーマとした2年生の総合学習の時間に、「ミス富士山としての経験から学んだことや感じたこと」と題した講演会を開きました。「富士山の麓の富士宮市民として何をしていくべきか」「富士山や富士宮市を国の内外にどのように知っていただくか」など、**歳の近い先輩が使命感を持って熱く語る姿を見て、中学生たちは富士山のことや自分の進路について「何ができるか」を考えるよい機会になったようでした。**富士根南中ではその後3月の同窓会入会式に4人のミス富士山を、また富士宮一中は卒業記念講演に田中さんを招き、講演会を行いました。

読者の皆さんにメッセージをお願いします。

○第2回講座では、田中さんの話をきっかけに、人づくりを考える場が思いもよらない形で広がりを見せました。特に、中学生が地元で活躍する若者の話を聞いて「何かができる人」を意識していたこと、講師として招かれたミス富士山の方々が自分を振り返る機会や地域の人づくりに関わる機会を得て喜んでいてことを聞き、活動に手ごたえを感じています。

○講座のたびに参加者から質問や意見が活発に出されたことも、人づくりの会にとって大きな励みになりました。来年も多方面から講師を招き、講座を充実していきたいと思えます。

【 人づくり百年の計委員会提言との関連 】

☆提言は、県の人づくりがめざす姿を、『静岡県では、どこの町もどこの村も、しょっちゅう“人づくり”の話をしているよ』という噂が全国に広がることこそ、私たちの願いです。」とまとめています。富士宮人づくりの会の活動は、その姿を体現したものと言えます。人づくり推進員と地域の各種団体などが手を携えて、人づくりを進めていくよう、県も支援をしています。



人づくりちょっといい話「人を浴びて人となる」もご覧ください。(→p33)

〈地域における人づくり〉

通学合宿「小島ほうもう舎」 ～地域の子どもは地域で育てる～

◆小島ほうもう舎実行委員会（静岡市）

・「ほうもう舎」とは、清水小島小学校の前身で、
現校歌でも歌われる「包蒙舎」のこと。

▼「通学合宿」は、地域の宿泊可能な施設を拠点に、年齢の異なる子どもたちが共同生活をしながら登下校するもので、子どもの生活体験の拡大、責任感・協調性・規範意識・忍耐力などの育成ならびに地域の教育力の向上を目的としています。県教育委員会が実施し、平成18年度には108箇所、19年度には116箇所、20年度は132箇所で開催されました。今回は、小3から小6までの33人が参加した、静岡市立清水小島小学校区の通学合宿について、コーディネーターの望月嘉徳さんにかがいました。



望月嘉徳さん

どのような活動をしているのですか？

○3泊4日の日程で、33人の児童が初日と2日目は自治会館、3日目は龍津寺に宿泊し、生活を共にしました。食事・入浴・登下校など、普段と違う日常生活を送るだけでも有意義なことですが、地域の歴史や普段できない体験をする良い機会であると考え、多くの方と触れ合う機会を設けました。主な活動は、以下の通りです。



通学合宿に関わった人が全て集まり、記念写真

○「ほうもう舎」って何だろう？

地元の方に、通学合宿の名称に用いられた「ほうもう舎」について話をいただきました。身延道を守るため、江戸時代小島地区に置かれた陣屋の跡地に明治時代「包蒙舎」という学校が建てられ、後に清水小島小となったことを説明してくださいました。



「ほうもう舎」の由来や地域の歴史の話を聞く

○もらい湯

入浴は、3～4人のグループごとに宿泊場所の近所のお宅でお風呂を借りる「もらい湯」です。小学生がいないお宅にお願いすることで、普段話すことのない地域の方と話す機会を設けました。薪を焚いた風呂（中には五右衛門風呂も）に初めて入った子どももいて、いい経験になったようです。お風呂のことや趣味のことなど、それぞれのお宅で話に花が咲きました。



3人一緒にもらい湯。得がたい体験。

○中学生が企画・運営するゲーム大会・きもだめし

夜には、授業を終えた清水小島中学校の生徒が宿泊場所を訪れ、レクリエーションを行いました。2日目にはゲーム大会、3日目には龍津寺の境内できもだめし大会を行い、小学生を楽しませてくれました。



中学生が張り切ったきもだめし大会

○その他

寺での座禅や飯ごう炊さんなどを行いました。

活動を進めていくためのポイントは何ですか？

- 次の3つを考えました。①初めての通学合宿だったので、無理をせず、「できることをとりあえずやってみる」ことを出発点とする。②地区で活動する各種団体と連携し、「地域教育への広がり」をめざす。③子どもや学校のためなら労を惜しまず動いて下さる方が多いので、「小島小の教育活動への参画・支援のきっかけ」を提供することを意識する。
- 多くの地域の団体に少しでもいいから協力していただくことが、各団体の活動の活性化にもつながります。各団体にとってもメリットがあることを訴えたことで、下記のように多くのサポーターが通学合宿に関わってくれました。

地域の歴史の説明	小島町文化財を守る会	生活指導	P T A 役員
登下校の指導	老人会 小島地区交通安全協会	食事の準備	老人会、児童の祖母 ボランティアパレットの会
レクレーション	清水小島中学校生徒有志	もらい湯の手配	小島町子ども会
飯ごう炊さん	但沼町子ども会	資材提供	地元の企業・森林組合

今後の活動について、どのようにしていきたいと考えていますか？

- 各団体との連携という「横のつながり」に加え、子ども同士の「縦のつながり」を作っていきたいと思っています。今回、中学生がボランティアで参加し、夜のプログラムを企画してくれました。彼らの姿を見て、参加した児童の中には「自分が中学生になったら、先輩たちのように後輩の面倒をみたい」という気持ちをもった子もいました。このような思いが、地域での人づくりを支える力になると考えています。

読者の皆さんにメッセージをお願いします。

- メッセージに代えて子どもたちの感想を紹介します。通学合宿の良さが伝わるのではないかと思います。

- ・通学合宿では、みんなとの協力、周りの人のありがたさが感じられました。みんながいるからこそ元気が出るし、笑顔になれました。ふだん学校では見ないみんなの新しい顔が見れた気がします。それに、自分でできることも増えたと思います。みんなだからこそできることが山ほどありました。(5年生女子)
- ・これまでむだなことに時間を使いすぎていたということを感じました。(6年生男子)
- ・ゲームとかマンガとか、そういう物がなくても友達がいるだけでねむさもふっとぶくらい楽しかった。でも、話しすぎてねむらないと授業中とかめちゃくちゃねむくなってしまうので、ねる時間、毎日やることのペースはまもらないといけないなと思いました。(6年生男子)



就寝前の自由時間。大部屋での生活に、自然と会話が弾みます。

【 人づくり百年の計委員会提言との関連 】

☆「人づくり推進の主体は地域社会」と提言では述べられています。地域のさまざまな世代や団体の協力を得て運営される通学合宿は、地域社会が中心になって進める人づくりの典型的な事例です。



〈団体による地域の人づくり〉

挨拶運動を通して地域の人づくりを

～浜松に朝の元気な風をふかそう！～

◆浜松市倫理法人会（浜松市）

・会員の有志が、毎朝、小学校の校門で挨拶運動を展開

▼浜松市倫理法人会は、浜松市内の200社を超える会員で構成された組織です。毎朝、会員の有志が浜松市内の小学校の校門に立ち、交替で挨拶運動を行っています。49校目となる浜松市立元城小学校での挨拶運動に訪れ、浜松市倫理法人会の渡邊虎雄さん、伊藤六郎さん、平出茂樹さん、宇津山茂さん、川井靖雄さんに挨拶運動のねらいや感想などをうかがいました。

どのような活動をしているのですか？

- 会員の有志が曜日ごと5つのグループに分かれ、交替で挨拶運動を行っています。1つの小学校につき5週間、毎日行います。
- 平成14年から始め、今年で7年目になりますが、今年度末で50校目になります。1校5週間ですので、年間8校行うことになりますが、浜松市内東西南北バランスよく回るようにしています。
- 学校の規模にもよりますが、大きな学校では、一日500回以上「おはようございます」という言葉を言うことになりすね。



一日のスタート。子どもたちは毎朝爽やかな挨拶で迎えられます

活動を進めていくためのポイントは何ですか？

- 「爽やかな、いい挨拶」「気持ちのこもった挨拶」をするよう心がけています。『語先後礼』がいい挨拶だと思っていますが、「爽やかな、いい挨拶」をするために5つのことを心がけています。こちらがそれを心がけていると、少しずつ子どもたちも5つのことができるようになっていきます。
- 毎日やることは大変です。しかし、やれば必ず変化があります。最初恥ずかしがって挨拶ができなかった子たちも、次第にいい笑顔で挨拶ができるようになります。1つの学校で長くやっていくことで、挨拶がどんどん良くなり、その学校に根付いていくんです。「繰り返していくこと」「継続」が大切なんですね。

1. お辞儀をする
(しっかりと頭を下げる)
2. 「おはようございます」と言う
3. 目を見て言う
4. 明るく元気な声で言う
5. 笑顔で挨拶する

活動を通して、どんな感想を持ちましたか？

- 毎朝小学校でやっていると、そこを通る地域の中学生や高校生、大人まで挨拶をするようになっていくんです。子どもの成長がわかる、地域の変化がわかることがとてもうれしいですし、「環境しだいで子どもは変わる」ということを実感します。

○よく「地域の健全育成」ということが言われますが、それは「挨拶」そのものだと思っています。地域の人が挨拶し、声を掛け合うことで、子どもたちは地域の人たちに見守られているということを実感し、どんどん良くなっていくと思います。

○実際、私たちが取り組む中で、「これまであまり挨拶しなかった子が地域でも挨拶するようになった」ということを聞きます。近所の人にも挨拶することで、ほめられる。そうすると子どもたちは安心し、自信もつけ、また進んで挨拶するようになる。そういういい循環が生まれ、子どもも地域も変わっていくんです。

○やっていく中で、子どもたちから教えられることもたくさんあります。そして何よりも子どもたちから元気をもらいます。爽やかな気持ちに、やっている自分たちがなれるんです。



この日は浜松市長も応援に駆けつけました。(右から2番目)

今後の活動について、どのようにしていきたいと考えていますか？

○浜松市倫理法人会は毎朝の挨拶運動のほかに、青パトでの防犯パトロールも行っています。この二つの取り組みを通して、浜松を日本一安心・安全な街にするために少しでもお役に立ちたいと思っています。

○倫理法人会の会員は、全国で50,000社以上です。私たち浜松市倫理法人会の挨拶運動が、他の倫理法人会や団体でも行うようになり、ひいては全国に広がっていくことを願っています。そうすればきっと浜松だけでなく、全国に「爽やかな元気な風」が流れ、日本はどんどん良くなっていくと思います。

取材で訪れた日は、元城小学校での最終日でした。

最後に代表児童が、「皆さんのおかげで私たちは挨拶ができるようになりました。明日からは、自分たちの力でこの爽やかな挨拶を続けていきたいと思っています。」と力強い言葉でお礼を述べました。

元城小学校の子どもたちの多くが、「おはようございます」の挨拶のあとに、「いつもありがとうございます」という言葉を添えていました。倫理法人会の取り組みに対し、学校の先生方的的確で細やかな支援の下、子どもたちのより良い成長の機会になっていると感じました。



多くの児童が集まり、代表の子からお礼の手紙が渡されました。

【 人づくり百年の計委員会提言との関連 】

☆浜松市倫理法人会の皆さんが心がけている、「あいさつの5つのポイント」は「美しい挨拶」を考えるための参考になるものです。提言では、「あいさつの言葉をはっきり、美しく言う習慣をつけさせることは、言語を明確に使うこと、ひいては論理的にものを考える基礎になる」「はっきりした言語は、はっきりした動作を誘発する」と指摘しています。いい挨拶、美しい挨拶を常に意識したいものです。



〈地域における人づくり〉

「6つのあいさつ」を地区全体で推進 ～公民館を中心とした徳育推進～

◆袋井市立浅羽東公民館

・袋井市では、市内13の公民館がそれぞれテーマを決め、徳育を進める「一館一徳」運動を展開

▼袋井市では、「人のために何かができる心ゆたかな人」をめざす市民像に掲げ、徳育（心の教育）を推進しています。その一環として、家庭・学校・地域がそれぞれ「一家一徳」「一校一徳」「一館一徳」運動を展開し、心を育てるために大切な事を訴えています。

▼浅羽東公民館では、県発行の「人づくりハンドブック」の「美しいしつけ」のページで紹介している6つのあいさつ（「おはよう」「ただいま」「いただきます」「ごちそうさま」「おやすみなさい」「ありがとう」）を基本としたあいさつ運動を展開しています。浅羽東公民館の「一館一徳」運動について、館長の伊原幸一郎さんにうかがいました。



伊原幸一郎さん

運動のきっかけは何ですか？

○袋井市の公民館館長会議に出席されていた、市の徳育推進委員で県の人づくり推進員も務める中塚博文さんが、「人づくりハンドブック」を配布し県の人づくりについて説明してくれました。「美しく挨拶しよう」の説明に共感した私は、挨拶をかわすことにより、地域の人々とふれあうとともに気遣いの大切さを地域に広めたいと思い、一館一徳のテーマに選びました。

どのような活動をしているのですか？

○平成19年度は次のような取組を行いました。

◇浅羽東地区全戸にあいさつ運動の啓発資料を配布

- ・手作りの啓発パンフレット
- ・6つのあいさつの言葉を記したうちわとシール
- ・県発行の人づくりハンドブック

◇小学生の登校時の集合場所（地区内6ヶ所）に「6つのあいさつ」の立看板を設置

- ・登校時にスクールボランティアの方々とともに、子どもたちが毎日唱和（スクールボランティアが不在の日は上級生を中心に、子どもたちが唱和）

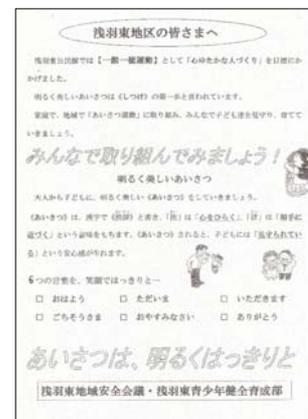
◇文化発表などを行なうイベント「第1回東地区市民夕べのつどい」開催時にパンフレットを配布し、6つのあいさつを唱和



啓発うちわとシール。シールは各家庭で目につくところに貼ってもらいます。



集団登校する小学生は、集合場所で看板を見ながら6つの挨拶を唱和し、登校します。



上:手作りのパンフレット
下:「宣言文」を各種イベントで配布し、唱和

○平成 20 年度は 19 年度の取組に加え、新たに次のような取組を行いました。

◇4 ヶ月に 1 回程度のペースで、**継続的にパンフレットの全戸配布及び班内回覧を実施**

◇地区内の史跡や寺社を巡るイベント「ウォーキングキャラバン」開催時に 6 つのあいさつを唱和

定期的に配布する広報紙に、毎回 6 つのあいさつの呼びかけを掲載（点線枠の部分）



地域の皆さんの反応や、今後の活動について教えてください。

○地域の方からは「小学生をはじめとして、地区内であいさつする人が増えたように思う」という声をいただくなど、**あいさつが定着してきたという手ごたえ**を感じています。今後も地区内の大きな行事（ウォーキングキャラバン・ふれあい運動会・公民館まつり・市民タベのつどい・敬老会など）のたびに、スローガンとして唱和し、浸透を図っていきたくと考えています。

○ある老人クラブの役員さんからは「〈朝起きたら〉おはよう」「〈外から帰ったら〉ただいま」「〈食事の前に〉いただきます」「〈食べ終わったら〉ごちそうさま」「〈寝る前は〉おやすみなさい」「〈感謝の気持ち〉ありがとう」などと、6 つのあいさつの前に言葉を入れた方が、より意味深くなるのではないか、という提案をいただきました。うれしい反応です。このように、**あいさつのあり方**などについて皆さんが活発に意見を交わすようになれば、**地域における人づくりが一層進んでいく**と思います。

読者の皆さんにメッセージをお願いします。

○今回のあいさつ運動の推進主体は、平成 19 年に組織された「地域安全会議」です。幼・小・中の P T A、子ども会役員、自治会役員、地区代表者、公民館推薦者といった地区内の団体役員がこの会議に参画し、公民館を中心として地域をあげて物事に取り組む体制が整ったことが、あいさつ運動を進める上で大きな力となりました。地域内の連携が大切なことを改めて感じました。

○市内の他の公民館でも人づくりを進めています。例えば笠原地区では、人づくりに関する規約を作成して「人のために何かができる人」を地区で顕彰する制度を設けました。浅羽東地区としても、今後も常に親しみと心のふれあう公民館を目指し、公民館を中心とした地域づくり、人づくりに励んでいきます。

【 人づくり百年の計委員会提言との関連 】

☆提言では、大切なこととして、「人づくりの推進の主体はあくまでも地域社会であって、地域社会の有識者でグループをつくり、まず、何から始めるかを討議し実行に移す」ことが指摘されています。浅羽東公民館をはじめとする、袋井市の公民館の取組は、これを体現するものと言えます。

人づくりハンドブック



人づくりちよっといひ話「声掛けの効用」もご覧ください。（→p36）

〈地域における人づくり〉

地域の青少年声掛け運動

～“声掛け”で変わっていく社会がきっとある～

◆県教育委員会青少年課

(平成 21 年度より社会教育課に改組)

- ・平成 12 年 11 月から運動を開始。
- ・これまでの参加者は約 22 万 5 千人に及ぶ。

▼青少年の悲しい事件が増加しています。わかってほしいという気持ちがあっても、なかなかそれを口にしない若者たちがいます。彼らに声を掛け、何気ない会話をする事で怒りや悲しみが爆発する前に話せることもあるはずです。

▼そこで、県では地域の青少年に、周りの大人がみんなで温かなまなざしを向けて声を掛け、積極的に関わりながら青少年の健やかな成長を支援する「地域の青少年声掛け運動」を展開しています。この運動について、県教育委員会青少年課の鈴木明義主幹にうかがいました。



鈴木明義さん

地域の青少年への声掛けには、どのような効果があるのですか？

- 青少年に声掛けを行うことは、彼らの「自分が見守られている」という自尊心を高めることになり、関わりを深める最初の一步になります。
- 一つ一つの声掛けが「私たち大人は、あなたたちの良いところ、頑張っているところをちゃんと見ていますよ。応援していますよ。」というメッセージになります。
- 周りの大人が「挨拶」や「声掛け」を行う地域の風土があると、そのことが青少年の心の拠り所になり、健全育成への大きなサポートになります。



登校する児童に声を掛ける「吉田町笑顔いっぱい運動」の風景。吉田町では、大人の 6 人に 1 人がこの運動に参加しています。

どんなときに、どのように声を掛けたいのでしょうか。

- まずは自分の周りの子どもたちに、温かなまなざしを向け、挨拶してみましょう。また、ほめたり、認めたり、感謝する言葉を掛けたりすることもよいでしょう。関わりができるに従って、心配な気持ちを伝えたり、考えさせたり、注意したり、叱ったりする声も子どもの心に素直に受け止められるでしょう。
- その他にも、次のような場面で声を掛けていただきたいと思っています。



街頭キャンペーンで運動への参加を呼びかける遠藤教育長とふじっぴー(平成 20 年 7 月)

- 近所、地域の子ども、知り合いの青少年、よく顔を見かける青少年に挨拶する。
- 乗り物等でお年寄りなどに席を譲った青少年をほめる。
- 地域で美化活動等、奉仕活動に取り組む青少年に感謝の声を掛ける。
- 仲間や相手にやさしくしたり、交通ルールを守ったりしている青少年の行為を認める言葉を掛ける。
- 自転車の二人乗りや無灯火など交通ルールを守らない青少年を注意する。
- 夕方遊んでいる子どもに帰宅を促す、あるいは気を付けて帰るよう言葉を掛ける。

地域での取り組みを紹介してください。

- 伊豆の国市では、大人の5人に1人が運動に参加しています。
- 伊豆の国市立韮山南小学校の立花台地区では、パトロール隊の皆様が、子どもたちに声を掛け、見守りながら健全育成活動を行っています。児童の下校に合わせて、学校へ出向き、一緒に歩いて学校の出来事などを話しながら帰ります。



下校時に合わせ、パトロール隊が学校に集まります。



一緒に話をしながら帰ります。下校時以外にも互いにあいさつを交わすようになります。

- 子どもや保護者からは、次のような声が届いています。
 - ・子どもの安全はもちろんですが、入学以来、挨拶が元気よくできるようになり、これも皆様声が掛けてくださっているおかげかなと、ありがたく思っています。(母親)
 - ・パトロールの人がいれば安全だし、こわい人につれていかれないから安心です。毎日見守ってくれてありがとうございます。(1年生)

読者の皆さんにメッセージをお願いします。

- 声掛け運動に参加した人から、多くの感想が寄せられているので、その一部を紹介します。多くの方が手ごたえを感じています。
- あなたの掛けた一言が青少年を支えます。また、声を掛けられた子は5年後10年後には声を掛ける大人になります。できる時にできる声掛けからはじめてみませんか？

- ・我が子の同級生や友人には名前を呼んで声を掛けます。すると、嬉しそうに挨拶してくるのがまた面白くなります。最初は少しでも町が明るくなればと始めた声掛け運動ですが、今では逆に子どもにパワーを頂いています。(30代女性)
- ・始めの頃は声を掛けても黙っていた子ども達ですが、今では私が田畑で仕事をしていると、子どもから先に「がんばって」と声を掛けられるようになりました。そのうちにいろいろな出来事、世間話などするようになり、元気が湧いてきます。(60代男性)
- ・気持ちのいい挨拶は、必ず心に残るはずです。また、する方も気持ちがいいので、人のためと思わず自分のために続けて行きたいと思っています(50代女性)

【 人づくり百年の計委員会提言との関連 】



- ☆提言の「社会と人間」の項では、大人たちが地域の子どもたちや若者の行動に日ごろから気を掛け、声を掛けることは、若者たちへの効果はもちろんのこと、大人自身の行動を律することにも役立つと指摘しています。
- ☆声掛けは「あなたたちの良いところ、頑張っているところをちゃんと見ていますよ。応援していますよ。」というメッセージです。これは、人は皆「意味ある人」だというメッセージでもあります。

人づくりちょっといい話「踏み込んで引っ張り出す教育」もご覧ください。(→p35)

「人づくりの場」としてのキャンプ

◆県立朝霧野外活動センター（富士宮市）

・日本キャンプ協会グループが指定管理者となり、「人づくり」としてのキャンプを行っている

▼平成20年の夏休みに小5から中3までの52人が参加して行なわれた「冒険キャンプ in 朝霧」。目的を「キャンプという非日常での体験を通し、子どもたちが“自分と他人の関係”“自分と自分の関係”“自分と自然の関係”について深く考え、それぞれとのよりよい関係をつくる場の提供」としていることに、このキャンプが「人づくり」を意識していることが良く表れています。「人づくり」としてのキャンプの内容や意義について、コーディネーターを務めた太田正義さんにうかがいました。



太田正義さん

どのような活動をしているのですか？

○小学生と中学生が一緒になって班を作り、全日程テント泊で自炊生活を行います。

○主な活動は次の通りです。

班別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに与えられた課題（全班員で「足が○本、手が△本の怪物になりなさい」といった内容）をクリアしながら、野外活動センター内を探検します。 ・班員が協力して取り組む態勢が作られます。
班別お好み活動	<ul style="list-style-type: none"> ・湧水探検、歴史探勝、地域研究などから1つを選択します。 ・班員間の調整力が培われます。
個人で選択する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・カヌー、釣り、MTB、川下りなどから1つを個人で選択します。 ・自分で選択したプログラムに意欲的に取り組みます。
全体活動	<ul style="list-style-type: none"> ・富士山の原生林を2日間掛けてハイキングします。 ・たくさん歩きますが、皆で声を掛けながら踏破をめざします。大自然の中での野宿も目的のひとつです。



(写真) 班別お好み活動で涸れ沢ハイキングを行ったグループ。1日かけて10kmほど歩きました。途中、冷たい水の感触を味わったり、歩きながらしりとりを楽しんだりして班員間の交流を深めていました。みんなで歩き通した体験が、子どもたちの力となります。



(写真) 薪の準備も自分たちで行います。ひとりひとりが役割を担うことに意味があります。

「キャンプを通しての人づくり」を進めていくためのポイントは何ですか？

(1) キャンプはひとつの「生活モデル」

生活様式や産業構造が変わり、子どもが家で親の仕事や家事を手伝う機会が少なくなりまし

た。昔に比べて子どもの生活体験が不足している中、キャンプはひとつの「生活モデル」を提供する場でもあります。小さな生活の場、小さな社会で学んだことや成功体験を実社会に生かして行って欲しいと思っています。

(2) 身につけて欲しいこと

- 何でもいいから、まず試してみる。このことが、自ら一步踏み出す「**勇気**」を育みます。
- 何かをやってみたら、できるようになった。このことが**何かができるという「自信」**を育みます。
- 生活班の中で、自分に求められていることは何かを考える。このことが、**自分の仕事が班の生活の一角を担っているという「役割意識」**を育みます。自分が家庭や社会で何らかの役割を担っているということが「意味ある人」につながると思います。

(3) 指導者の姿勢

- 子どもたちの可能性を引き出すために、スタッフ一同「**子どもたちが試行錯誤して取り組むのを「見守る」「待つ」=余裕を持つ**」ことを心がけています。
- 手取り足取り教えれば作業はスムーズに進みますが、それでは、子どもの主体性は育ちません。例えば、あるグループが食事の準備を面倒くさがっていても、あえて待つ。いつまでたっても食事にありつけなければ、そこでグループはどうすればいいか考えます。自分たちで動き出したときに背中を押すような関わりができればいいと思っています。

読者の皆さんにメッセージをお願いします。

○昔の農家では、子どもも立派な働き手として農作業や家事を任されましたが、現代の家庭には、子どもが手伝いをしなければ家の中がまわらないという状況はあまりありません。ただ、手伝いや生活体験が不足すると、子どもは家の中や学校などで「**役割意識**」が持たなくなります。何からの形で生活体験をさせたいものです。



ハイキングでの出来事をスタッフに報告



9日間、このテントで過ごします

- 「(知識として)知っている」と「実際に体験してわかっている」ことの違いは大きなものです。「まき割りや火の焚きつけができるようになってうれしかった。」「たくさん歩いて汗をかいた後に飲んだ湧き水は冷たくておいしかった。」「原生林ハイキングは疲れたけど、みんなでゴールを迎えた時は気持ちよかった」という子どもたちの声を聞くと、体験の重要性を改めて感じます。
- 「**結果**」だけを見るのではなく、**何かを目指す「過程」**の中で、**その子がどう変わったか、何ができるようになったかなどを重視してほしい**と思います。



【 人づくり百年の計委員会提言との関連 】

☆冒険キャンプで重視していることのひとつが、「**役割意識**」を育むことです。これは、「**意味ある人**」に含まれる人間像のひとつである「**何かができる人**」に通じるものです。大人も子どもも、家庭や社会の中で自分が何らかの役割を担っていることを意識できるように働きかけていくことが、人づくりにつながります。

〈大学生による人づくり〉

小学生のキャンプを大学生が企画・運営

◆リトルワールドキャンプ実行委員会 (静岡県立大学サークル)

・ゼミ企画を有志が受け継ぎ、今年で5年目

▼様々な世代の人たちと関わりを持つことが、「人づくり」の推進につながります。親と子ども、地域の大人と子どもという関わりに比べると、高校生や大学生が子どもと関わる場は少ないと思われます。きょうだいの数が少ない今の社会においては、子どもたちが「お兄さん」「お姉さん」の世代ともっと関わるのが求められているのかもしれない。

▼そういう中で、「未来を担う子どもたち」を育てるために、大学生の私たちができることを行いたい。」という志を持った学生により運営されている「リトルワールドキャンプ実行委員会」は頼もしい存在です。この委員会の活動について、代表の村松由梨さん（静岡県立大学国際関係学部3年）にうかがいました。



村松由梨さん

どのような活動をしているのですか？

○毎年8月に、県内に住む日本人・外国人の小学生を対象に、国際交流キャンプを行っています。様々な交流活動を通じて、異文化への関心、理解につなげるのが目的です。

○平成16年度に県立大学国際関係学部のゼミ生の企画として始められ、平成17年度からは有志の学生がサークル化して引き継ぎました。今年で5回目となります。

○毎年、キャンプが終わってから1年をかけて、次のキャンプの企画を行います。



子どもたちとスタッフで記念撮影

◆平成20年度「Little World Camp5」～沼津市立少年自然の家～

○平成20年8月10～12日、沼津市立少年自然の家で2泊3日のキャンプを行いました。

○今年の参加者は、小学3年生～中学2年生まで計38名。スタッフは、サークル員14名に加え、サポートスタッフ、通訳の計40名です。

1日目	入所式、ゲーム、多国籍料理作り、大漁旗作り
2日目	ウォークラリー、ゲーム大会、キャンプファイヤー
3日目	掃除、記念品作り、退所式

活動を進めていくためのポイントは何ですか？

①子どもたち同士のコミュニケーションをいかに増やすか。

- ・キャンプ初日に初めて顔を合わせる子ばかりですから、子どもたちは恥ずかしがって、どうしてもスタッフとの会話が多くなってしまいます。様々な活動を用意したり、意図的に子どもたち同士で話し合ったり相談したりする場面を作って、子どもたち同士のコミュニケーションを増やすことで、しだいに子どもたち同士で遊べるようになっていきます。

②スタッフの組織化、引退した4年生の「助っ人」。そして、自主的なボランティア。

- ・企画の段階で、スタッフを組織化し、それぞれの係の判断で企画を進めていきます。それぞれの係が少人数になることで、スタッフ一人一人の責任は重くなりますが、各自のアイデアや工夫で効率的に進めることができます。
- ・また、今年も引退した4年生が「助っ人」として、自主的に当日参加してくれました。3日間で一番心配なのは、子どもたちの事故です。「子どもたちを見守る目」が増えることで、安全なキャンプになります。
- ・当日参加してくれた通訳2名も、私たちの活動を理解して協力してくれたボランティアの方です。言葉が通じない子にも安心して参加してもらえます。



多国籍料理作りに挑戦!!

③毎晩のミーティングで、より安全で楽しいキャンプに。

- ・キャンプ中は毎晩スタッフミーティングを行います。参加した子ども一人一人の様子について報告し合ったり、問題点を出し合ったりします。参加した子どもたちみんなが「キャンプに参加してよかった」と思ってもらえるように、スタッフみんなで改善策を話し合います。

④「人集め」「お金集め」が毎年の悩み。

- ・一年の企画の中で一番大変なのが、「人集め」と「お金集め」です。
- ・活動費は、大学の「クラブ・サークル費」、国際関係学部の「学部活性化プロジェクト助成金」をあてました。また、参加者を募るために、静岡新聞に記事を載せていただいたり、県内の図書館にチラシを貼らせていただいたりしました。また、外国人の参加者を募るために、ブラジル人学校と朝鮮学校に募集のお知らせをしてもらいました。

キャンプを通して、どんなことを感じましたか？

- 3日間は、休む間もなくずっと動いてばかりで、正直大変疲れます。でも参加した子どもたちの笑顔を見ると元気がわいてきます。子どもたちのためにと考えてやっているキャンプですが、実はキャンプを通して、私たち大学生自身が子どもとの接し方や気持ちなど、多くのことを学んでいると感じました。
- 今後もこのキャンプで様々な子どもたちが仲良く生活したり遊んだりすることを通して、「見た目や文化、国籍が違ってみんな仲間なんだ」ということを感じてほしいと思います。

参加した小学6年生の女の子にインタビューしました。

- 去年は家の人が教えてくれたのでキャンプに参加しました。とにかくすべての活動が面白くて、いろいろな人と出会えるのが良かったです。だから今年も自分で申し込んで参加しました。「国際交流」ということで外国の人も多くて、他のキャンプとちがってとてもいいです。来年も参加したいです。

【 人づくり百年の計委員会提言との関連 】

☆提言は、「自分に自信を持ち、目標に向かって主体的に活動し、思いやりのある子は気持ちがいい。」と述べています。大学生の「見た目は違ってみんな仲間だ」というメッセージがインタビューに答えてくれた児童のような「気持ちのいい子ども」を育てています。



〈地域における人づくり〉

地域の“おやじ”が中心となり、
子どもたちに体験の機会を提供

◆おやじ倶楽部（菊川市）

・平成 15 年、県コミュニティづくり推進協議会
「コミュニティ活動優秀賞」受賞

▼平成 12 年、当時の菊川町青少年健全育成会議六郷支部長の「世の中が混沌としている今、おやじのパワーが地域や家庭でますます必要だ！」という提案からはじまった「おやじ倶楽部」。「おやじ同士の親睦を深める」「主役は子どもたち」などを目標に掲げ、45 人の会員が子どもと一緒に外遊びや体験活動を活発に行っています。活動内容や外で思いっきり遊ぶことの意義について、事務局長の八木一嘉さんにうかがいました。



八木一嘉さん

どのような活動をしているのですか？

- 毎月 1 回定例会を開催し、活動の企画や準備をしています。
- 年間約 10 回のイベントを開催しています。例えば、次のようなものです。

サイクリング &フィッシング	自転車で菊川河口まで走り、ハゼ釣りを実施します。 釣ったハゼはその場で天ぷらにして食べます。
御前崎海岸での蛸捕り	大潮の時期を選んで磯遊びをします。 捕った蛸や魚を材料にバーベキュー大会を行います。
昔の遊び大会	凧づくり、こま回し、三角ベースボール、馬乗りなど、いろいろな遊びを行います。
地区センター祭りへの参加	毎年参加し、輪投げ大会やビンゴゲームの運営、おやじ倶楽部の PR などを行います。

○平成 20 年夏には、菊川市内の公園を借りて「水鉄砲合戦」を行いました。市内の幼稚園児や小学生に参加を呼びかけ、約 100 人が参加してくれました。参加者は 12 のチームに分かれ、それぞれのをとりつけたヘルメットをかぶります。コートの中で竹製の水鉄砲を打ち合い、相手の的をたくさん射抜いたチームが勝ちというルールです。



7 月に行われた水鉄砲大会の様子

○使用した水鉄砲は、おやじ倶楽部の主催で 3 月に開催した「昔の遊び」大会の時に里山から竹を切り出し、倶楽部の会員と子どもと一緒に作ったものです。

活動を進めていくためのポイントは何ですか？

①自発的に活動すること。

- ・おやじ倶楽部の会員は、自らの意思で参加した人ばかりです。「やらされている」という気持ちではなく、自ら行動し、楽しもうとする気持ちが長続きの秘訣だと思います。



部長の伊藤彰彦さん

②会員同士の活発な「飲コミュニケーション」

- ・なにげない会話の中から企画が生まれます。普段から会食などの機会を設け、会員間の情報交換を密に行うことが大切です。「おやじ倶楽部の打合せだ」と言えば、家族も快く送り出してくれます。

③会員ひとりひとりの特性を生かし、会員の誰もが「主役」になること

- ・本倶楽部では、アイデアを出した人が企画の責任者になります。会員の誰もが主役になる可能性があり、やりがいもあります。
- ・異業種の人が集まっているので、提案の内容もバラエティに富んでいますし、必要な道具や実施のノウハウも倶楽部の中で手に入ります。例えば、蛸捕りは釣り具店を営む会員の提案です。



金魚すくいの網やダブルクリップを使うなど、工夫して作った的

今後の活動について、どのようにしていきたいと考えていますか？

- 平成12年の発足当初から参加し、自分の子どもたちが成人した後も活動を続けてくれている会員がたくさんいるのが、私たちの団体の良いところですが、活動を維持し、活性化していくためには、新たな会員の開拓が不可欠です。幼稚園児や小学生の子を持つ会員を通じて新規会員を増やし、活動のノウハウを伝えていくことが必要だと思っています。
- 他の地域の方が、本倶楽部の活動を見学に来ることがあります。彼らと協力して新たな行事を開催し、“おやじ”の輪を広げていけたらいいと思います。

読者の皆さんにメッセージをお願いします。

- 家の中でやると怒られそうなことでも、広場等で思いっきりやれば楽しいものです。外で遊んでずぶ濡れになったり、泥まみれになったり、体をぶつけ合ったりする経験が豊富な子は、陰湿ないじめをしません。また、自分で水鉄砲などのおもちゃを作るのも楽しいものです。屋外での遊びは子どもの心身の発達によい影響をもたらします。
- 休日に行楽地に行くのもいいですが、近場でお金をかけずに遊ぶのも楽しいものです。ぜひ、大人から子どもに、屋外での遊びを教えてあげて欲しいと思います。今の親世代は外での遊び経験が少なくなってきた世代です。まず、大人が外での遊びを楽しみ、その面白さを子どもに伝えていきましょう！



【 人づくり百年の計委員会提言との関連 】

☆里山の保全と昔の遊び体験が結びついた竹の水鉄砲作り、ドッジボール的なルールを取り入れた水鉄砲合戦、…「人づくり百年の計委員会」提言では、「地域でのイベントの工夫」や「若者文化と伝統文化が手を組むことによる文化の活性化」を通し、世代を超えた人々のつながりを強くすることが提案されていますが、おやじ倶楽部の「水鉄砲合戦」は、それを象徴するようなイベントと言えます。また、ずぶ濡れになって追いかけあうといった体験が、提言に掲げられた「気持ちのいい子ども」を育みます。

〈地域における人づくり〉

「勉強」「スポーツ」「こころ」を柱に、
地域で子どもたちの健康な体と心を育む

◆徳倉キッズクラブ（三島市）

・平成 20 年度

「子どもをはぐくむ地域活動団体」表彰

▼長年、空手の指導を通して多くの子どもたちの心と体の成長を見守ってきた、三島市在住の甲斐さん。スポーツだけでなく、地域のボランティアの方々の協力を得てさまざまな活動を行うことのできる環境を整え、知・徳・体のバランスの取れた子どもを育てていく事を目的として、「徳倉キッズクラブ」を設立しました。このクラブの活動について、クラブの設立者で、事務局も務める甲斐幸博さん（人づくり推進員）にうかがいました。



甲斐幸博さん

どのような活動をしているのですか？

○徳倉地区の小学生を対象に、健康でバランスの取れた心身を育てることを目的として、「たのしい勉強」「スポーツと遊び」「こころ」の3分野の活動を定期的に行っています。具体的には、次のようなものです。

1) たのしい勉強（月1回）

◇学校で教わること以外にも、世の中には「ふしぎ」がいっぱいあります。クラブでは、各分野の専門の方に来ていただき、子どもたちが感じている「ふしぎ」について、楽しくわかりやすく勉強します。

◇20年度は、「ホバークラフトの製作」をテーマにしました。夢のある乗り物で、子どもたちも喜ぶのではないかと思ったからです。企業の方を講師に招き、1年間かけて、試行錯誤しながらホバークラフトを作りました。完成までの過程は次の通りです。

①風船を使った簡単な模型を作り、ホバークラフトが走る原理を知る。

②トラックのタイヤのチューブと掃除機のモーターを使って試作したホバークラフトを用いて、動かし方や座り方を実験し、どうすればうまく動くかを考える。

③実験をもとに、どのようなホバークラフトを作ったらよいか、班ごとに相談する。

④試作品を作り、試乗して問題点を見つけ、改良。3度目の作品で完成。

⑤製作のポイントを振り返るとともに、さらなる改良点について話し合い、まとめとする。

⑥最後に、徳倉小の全校児童の前で試乗会を行い、1年間の成果を発表する。

◇ひとつの目標に向かって互いに協力し、楽しく活動することができました。



風船とシャボン玉の空容器と CD で模型を作り、動き方を調べる。



班ごとにどんなホバークラフトを作るか話し合い、班長が発表。



試作品に試乗した後、改良点について意見を出し合う子どもたち。

2) スポーツと遊び (週1回)

◇スポーツや武道、昔懐かしい遊びなどを通して、体を動かし、汗を流す楽しさを感じるとともに、**ルール**の大切さや**協調性**を学びます。

毎週、スポーツチャンバラと空手を中心に体を動かしています。
(写真はスポーツチャンバラ)



3) ころを育てる (月1回)

◇徳倉地区にある「歓喜寺」で、毎月座禅を組み、和尚さんや講師の方の話を聞きます。毎回、子どもたちにあいさつや返事が大事なこと、自分だけでなく親や友だちを大事に思うことなどを話してくれます。子どもたちが何かを感じ、自分を見つめる時間をつくり、**子どものころを育てていきたい**と考えています。



座禅と講話を毎月続け、心の成長を促します。

4) その他

◇この他にも、20年度は、畑を借りてにんじん作りを行い、秋には収穫の喜びを味わいました。

活動に参加している子どもたちの様子はいかがですか？

○子どもたちは3分野の活動を楽しんでいます。友だちの輪も広がっています。スタッフも、「子どもたちがいきいきと活動している」「落ち着きのなかった子どもが、徐々に落ち着いて行動できることが多くなってきた。座禅や武道の時間がいい影響をもたらしているようだ。」などと感じていて、活動に手応えを感じています。



多くのにんじんを収穫

読者の皆さんにメッセージをお願いします。

○子どもを育てることは、親にとっても地域の方々にとっても大変なことです。親の環境や学校・友だちなど、子どもの周りの環境で、子どもの生活が大きく変わってきます。親や地域の大人が、**子どもたちのために良い環境作り**を行い、楽しいことも苦しいことも様々な体験を与え、人生を自らの力で乗り切っていくことができるよう、少しでも力になればと考えています。私たちは、そのような環境作りを行い、子どもたちと一緒に、今後も活動していきたいと思えます。



にんじん畑で気持ちのよい汗をかいた、徳倉キッズクラブの皆さん

【 人づくり百年の計委員会提言との関連 】

☆豊かな体験が、提言で述べられている「気持ちのいい子ども」、ひいては「意味ある人」を育みます。ボランティアの協力を得て、「楽しい勉強」「スポーツと遊び」「ころ」とバラエティに富んだ活動を行う徳倉キッズクラブのように、地域の人的・社会的資源を活用して豊かな体験の場を作っていきたいものです。



人づくりちよっといい話「子どものゴールを考える」もご覧ください。(→p40)

〈地域の団体による人づくり〉

“こどもは遊んで育つ”

～こどもが育つ環境づくり～

◆NPO法人 天城こどもネットワーク

・こどもたちが仲間とともに思い切り遊ぶことのできる
“プレーパーク(冒険ひろば)”

▼こどもたちのより良い成長のためには、こどもたちがワクワクドキドキしながら、自分の良さやアイデアを十分に発揮できる環境づくりが大切です。

▼可能性を秘めたこどもたちの生きる力を育み、自分に自信をもてる機会を周りの大人がどう作り出すか…。「遊びと学びの多様な空間」づくりでこどもが自ら育っていく力を支援していこうと積極的に活動している『NPO法人 天城こどもネットワーク』代表の田所雅子さんに“プレーパーク”についてうかがいました。



田所雅子さん

“プレーパーク”とはどのようなものですか？

- こどもたちは本来、大人の目の届かないところで仲間とともに自由に遊んで育ちあつたのではないのでしょうか。いわゆる「ガキ大将集団」ですが、それがなくなってしまって久しくなります。こどもの育ちにゆがみが出てきているのは、自然の中で自由に遊び、「こども同士で育ちあう場」が失われてしまったためと私たちは考えました。それを復活させ、こどもたちの「自ら育とうとする力」を引き出すことのできる場がプレーパークです。
- 私たちの作ったプレーパークは、現在、天城・函南・大仁にあります。どこも森や空き地などその地域の自然を活かした空間で、こどもたちはここで基地を造ったり遊びを考えたり、工夫して遊んでいます。
- 当然、プレーパークにも「大人の目」はあります。でもそれは決して「管理の目」ではなく、こどもたちがより自由に遊べるように見守り、遊びをもっと豊かにするためにこどもの遊びに弾みをつけるための目です。

その活動を進めていくためのポイントは何ですか？

- こどもが自由に遊びを展開していけるような仕掛けや遊具のある「場所」と、空気のような存在の「大人」がいることだと思っています。
- こどもの感覚と大人の感覚は違います。大人の感覚で「安全」と思っても、こどもは想定外の動きを必ずします。また、逆に、大人の感覚で「危ない」と思っても、こどもなりに考え、工夫をして安全に遊びます。
- 大人の感覚で考えた「結果」がわかっているにもかかわらず、あえて言わず、見守り、やらせてみる。そうした中で「失敗」をし、またこどもは工夫をして遊ぶ。うまくいくようにアイデアを出し合う。こうしたことの繰り返しの中で、こども同士で育ちあつていくのです。



こどもたちが工夫して作った
“ツリーハウス”

今後の活動について、どのようにしていきたいと考えていますか？

- 「自由に遊んでこなかった人たち」がもう親の世代になっています。ですから、その大人も一緒に巻き込んで様々な仕掛けをして、遊ぶことの大切さを訴え続けながらプレーパークを運営していくつもりです。
- 特に、天城「ゆうゆの森」で行っている「森のプレーパーク」での活動が、親世代を巻き込みつつ広がっています。それをより豊かにつなげ、「こどもが作る町『虹の子タウン』」などのイベントを少しずつ大きく育てていく予定です。



ゆったりとした時間の中で、こどもたちはアイデアを出し合い、遊びを考えます。

最後に、読者の皆さんにメッセージをお願いします。

- こどもは誰でも自ら育とうとしています。それを十分に引き出すためには、次のようなことを心がけるといいと思います。

- ・ 大人の感覚や型で、こどものやることを見ないようにし、言いたくなかった言葉を飲み込み、まずはこどもにやらせてみる。
- ・ 「危ない」「汚い」「うるさい(にぎやか)」を認め、見守る。
- ・ 何かをやらせようとしないで、何もしないでボーっとするという自由な時間を認める。
- ・ ワクワクドキドキして夢中になってしまうような楽しい居場所(空間)をたくさんつくる。



食べ物も、自分たちで作った囲炉裏で焼きます。

- こどもたちは、このような空間と仲間があれば、「遊びから学びへ」と、どんどん自らの力で発展させ、成長していきます。
- 私たちは、そんな場をたくさん作ろうと活動しています。あくまでも「子育て支援」ではなく、「子育て支援」であるということにこだわって、これからも活動していきたいと思っています。



【 人づくり百年の計委員会提言との関連 】

- ☆提言の「子どもたちへの『生き生き』体験機会」の項目では、「静岡県には豊かにそろった自然がありますから、この自然を生かして取組を考えていくのもいいでしょう。」と自然の中での豊かな体験を勧めています。
- ☆皆さんの周りにあるちょっとした空間も見方を変えれば、きっと、こどもたちの「生き生き体験」の空間となるはずです。そのことを「天城こどもネットワーク」の取組が示してくれています。

人づくりちょっといい話「子どもは外で遊んで、汗をかいて、バタンと眠る」もご覧ください。(→p34)

〈地域における人づくり〉

中学生によるベビーシッター・ボランティア ～乳幼児のいる家庭を中学生が訪問～

◆片浜地区社会福祉協議会（沼津市）

・平成 18 年度 静岡新聞社「あすなる賞」

・平成 19 年度 朝日新聞社「のびのび教育賞」

▼平成 13 年より沼津市片浜地区社会福祉協議会と片浜中学校生徒会が中心となり、中学生による「ベビーシッター・ボランティア」を行っています。

▼この「ベビーシッター・ボランティア」の企画立案者であり、学校と地域の橋渡し役でもある沼津市立片浜中学校「心の教室相談員(スクールカウンセラー)」の田村輝美さんにうかがいました。



田村輝美さん

中学生による「ベビーシッター」とはどのようなものですか？

- 地域の幼稚園児や乳幼児のいるお宅に中学生が伺い、小さな子どもたちの面倒を見る活動です。部活のない月曜日の放課後に、ボランティアとして登録している生徒が二人一組で、この活動に登録している家庭を訪れ、夕食の準備などで忙しいお母さんに代わって、子どもたちの面倒を見ています。
- 子育てや家事に追われるお母さんたちに、少しでも休む時間を持ってもらうとともに、日ごろ触れ合う機会が少ない中学生と乳幼児が互いに刺激し合い、心が育っていくことを願って始めました。

ボランティアの中学生はどんな様子ですか？

- 生徒たちは、初めて抱く赤ちゃんや幼児との関わりの中でたくさん驚きの経験をしています。ある中学生は、「赤ちゃんって、結構重いんだね。とても貴重なものを持っている感じ。」と言っていました。「子どもは嫌い・・・」と言っていた女生徒が、ベビーシッターを経験して赤ちゃんが大好きになったり、寝ていた子が半年後には歩いていたのを見てびっくりしたり、子どもの成長を身近に感じ、親への感謝の気持ちを持ったりもします。
- 自分が家庭を持ち、親になった時、この経験をしていたことで「あんな子もいたなあー」と子育ての時、少し余裕ができると思います。



お兄さんお姉さんが来てくれて、
子どもたちも大喜び!!!

活動を進めていくためのポイントは何ですか？

- ① 中学校の校長先生・先生方、地域の方の理解
始めてからこれまでにいくつかの賞をいただいています。そうした機会が増えるごとに「ベビーシッター・ボランティア」が地域の方にも広く知られ、地域に活動が浸透していきました。
- ② 訪問家庭や学校との連携
小さな子どもが急に病気になったり、用事ができたりして、キャンセルになることがあります。また、中学生も用事が急に入ったり、学校を欠席したりして訪問できなくなることもあ

ります。そういうときに、休んだ生徒の代わりに活動してくれるお友達をお願いしたり、別の訪問家庭をすぐ確保したりできるように、常に各家庭や学校とは連絡を密にしています。



子どもたちにとっても中学生にとっても“素敵な時間”です。

③ 訪問家庭の母親との心のつながり

よりよい活動になるよう、訪問中には、中学生が幼児と関わる様子を見て回っています。そういう機会に、訪問先の母親が私に子育ての悩みや不安などを話してくれたりします。中には、私が来るのを待っていてくれるお母さんもいます。お母さんとのつながりが強くなっていくことで、信頼して協力してもらえます。

今後の活動について、どのようにしていきたいと考えていますか？

- 中学生が自分を慕ってくれる乳幼児を可愛く思え、無償の愛を感じてほしいと思います。また、片浜地区では中学生に地域に出て、知り合いを多くしてもらうように次のような活動もしています。顔見知りが増えることで、皆が挨拶し、住みやすい地域になっていくと思います。

アタック・ルーム	小学校の参観日の参観懇談の時間に低学年や幼稚園児の託児のお手伝い。
エプロン・タイム	地域の方が先生で中学生、小学生が調理し、お昼を食べる。
幼稚園ボランティア	幼稚園にて、中学生が園児と一緒に遊戯をしたり遊んだりします。
ふれあい・トーク	一人暮らしの老人のお宅に中学生が訪問。おしゃべりしながらお年寄りの知恵を教えてください。
かたり・タイム	中学校に地域の方が来て、中学生に体験談を聞かせてくれる。

読者の皆さんにメッセージをお願いします。

- 思春期真っ只中の中学生時代に小さな子と関わることで、大変な思いをして自分を育ててくれた両親に対して感謝の心を感じたり、子どもの成長の喜びをお母さんたちから聞いたり見たりする経験は、中学生たちのこれからの生活の中で必ず生かされる「宝物」だと思います。
- また、訪問家庭のお母様方からも「中学生って怖いと思っていたけど、皆やさしいのね。」と中学生の「本当の姿」を見ていただくいい機会になっています。
- 小さな子どもと接する活動を通して、地域に年齢を超えた知り合いが増えていくことで、一層住みよい地域になるのではないかと考えて取り組んでいます。
- これからも、私自身が楽しみながら様々な活動を行っていきたいと思っています。



【 人づくり百年の計委員会提言との関連 】

☆ベビーシッター・ボランティアを通して、中学生は自分も親に愛されて育ってきたことを実感し、周囲への思いやりの心も育ちます。このように、地域で子どもが活躍する機会を作ることで、地域も子どもも育っていきます。

人づくりちよっという話「お母さんと赤ちゃんの目の距離」もご覧ください。(→p39)

〈地域における人づくり〉

関係団体・個人のネットワークを構築し、
子どもの読書環境向上に努める

◆藤枝子どもと本をつなぐ会（藤枝市）

・市内の読み聞かせを行う団体や個人のネットワーク。このようなネットワークは県内では他に例を見ない。

▼本の読み聞かせは親子のアタッチメントを増やすとともに、子どもの言語や感情の発達に良い影響をもたらします。また、読書を通じてしっかりとした日本語が身につく、思考力も鍛えられます。本は人づくりに欠かせないものです。

▼「藤枝子どもと本をつなぐ会」は、「藤枝市の子どもの読書環境の向上」と「会員相互の連携と学び合い」を目的として、平成 15 年 5 月に設立されました。市内で読み聞かせを行っているグループや個人が集まり、現在、団体を中心に、個人、賛助会員を合わせて約 240 人の会員（平成 20 年 5 月現在）が読書の普及に努めています。この会の活動について、会長の相馬登美子さん(人づくり推進員)にうかがいました。



相馬登美子さん

どのような活動をしているのですか？

- 毎月 1 回役員会、年 4 回世話人会を開催し、活動の企画や準備をしています。
- 年間 4 回の研修会と視察、講演会を行いました。その他に受託事業を行っています。受託事業は、小学校の家庭教育学級における読み聞かせや本の紹介、中学校や高等学校の生徒への読み聞かせやストーリーテリング（※1）・朗読、公民館講座（母親を対象とした読み聞かせ養成講座）などが主なものです。
- 平成 20 年度の活動は、次の通りです。

講演会	総会后講演 「子どもと本をつなぐブックトーク（※2）」（講師 張替恵子氏）
	駅南図書館開館記念文学講演 「文学に支えられて」（講師 清水眞砂子氏）
会内研修	「中学生のための選書の仕方」（講師 栗田美和子氏） 「藤枝市子ども読書活動推進計画について」（講師 藤枝市立図書館員）
ワークショップ	「わらべうた講座」（講師 森島瑛子氏）
図書館視察	掛川市立図書館視察研修・引佐人形劇まつり視察研修
受託事業	13 団体 延べ 3952 名（平成 21 年 2 月 18 日現在）



中学生に向けての読み聞かせやブックトークの依頼が増えてきたので、会員の研修として中学校の学校図書館司書の講義を受けました。



静清工業高校2年生に20分間、小泉八雲をテーマに本の朗読とブックトークを行いました。生徒は関心を持って熱心に聞いてくれました。



藤枝市民待望の駅南図書館の開館を記念して藤枝市立図書館と共催して清水眞砂子氏の講演会を行いました。受講者が殺到し、関心の高さがうかがわれました。

受託事業における訪問先の反応はどのようなものですか？

○読み聞かせの良さや意義を理解してくれた方が多く、活動に手応えを感じています。

【葉梨小学校家庭教育学級受講生の感想】

- ・字が読めても本を読んであげるとはとても大切なことだと思った。
- ・本を選ぶとき大人が目線で選んでいたが、これからは子どもに選ばせてあげようと思った。
- ・余計な質問や、説教じみた話の付け加えが、本を台無しにしていたことが良く分かった。

【静清工業高校生徒の感想】

- ・自分から本を読むようになり、図書館の本も借りるようになった。
- ・文章から頭の中に情景がイメージできるようになった。
- ・朝、読んでもらおうと、心が落ち着く。

【大洲中学校でストーリーテリングを聞いた生徒の感想】

- ・現代にはない物語が聞けるのが楽しい。
- ・本がない分自分の創造力を働かせることができているのが楽しい。



大洲中学校におけるストーリーテリング。生徒達は語り手のお話に集中して、物語の世界に入り、イメージを膨らませていきます。

活動を進めていくためのポイントは何ですか？

①各グループの活動を基本にしたゆるやかな連携。	各グループが地域に密着して長期にわたり、独自の活動を続けていることを大切にしていきたいと思えます。
②市行政と協働して活動	会員同士の連携にとどまらず、特に市立図書館と協力して活動を進めています。
③依頼された活動とボランティアをコーディネート	保育園、幼稚園から小学校、中学校、高校に亘る学校からの依頼、また自治会、公民館などの依頼を受託しています。
④会員の活動内容の向上	会内研修会以外にも学習の機会の情報を提供しています。

読者の皆さんにメッセージをお願いします。

○子どもと本に長くかかわってきた経験から、人づくりにおける“ことば”の力がいかに大きなものであるかを痛感しています。各家庭における子どもの生活を見直して、子どもが本に触れる機会や場を作り出すように工夫してほしいと思えます。私たちも、各会員(団体)の活動をサポートするとともに、今後は会員外からも研修に参加できるよう門戸を広げるなどして、藤枝市の子ども読書環境の向上のために努力していきます。



保健センターにおけるブックスタートは親子とボランティアの心が通う楽しい時間です。

※1 ストーリーテリング 物語、お話を覚えて語って聞かせること。

※2 ブックトーク 一定のテーマを立てて、それに沿って、何冊かの本を順序良く紹介すること



【人づくり百年の計委員会提言との関連】

☆提言では、美しい日本語を身につけさせ、言語的知性を発達させるために、「さまざまな分野の作品を家で読み聞かせる」ことや「毎日10～30ページの読書」を提案しています。

〈職場における人づくり〉

職場、家庭、地域における人づくりを進める 「コミュニティーホスピタル」

◆医療法人社団 甲賀病院(焼津市)

・平成元年開設。ワークライフ・バランスや男女共同参画事業にも熱心に取り組む。

▼「私たちは『地域医療』に貢献し、併せて『地域の人々との交流』の場を大きく膨らませていきます。そして、“地域”を通して『環境改善活動』を強力に進めていきます。そのために、ひとりひとりの職員を大切にしたいと考えております。」これは、甲賀美智子理事長の言葉です。患者に十分な医療を提供するためには、職員の人間性を高めること、精神的な充足感を持って業務に従事することが大切と考え、職場における人づくりを熱心に進める甲賀病院の取組について、川島一高事務局長、長島和美看護部長にうかがいました。



川島事務局長(左)と長島看護部長(右)

どのような活動をしているのですか？

○患者や職員による文化祭

- ・入院、通院、通所の患者・患者家族や、医師をはじめとする病院職員が作品を持ち寄ります。展示や鑑賞を通じて患者同士、患者と病院職員がコミュニケーションを深める場になっています。
- ・病気や怪我で気が沈みがちな患者さんにとっては「何かができる人」を体現する場でもあります。



患者も職員も文化祭に出品します。

○地域の方を対象とした講演会(甲賀はつらつ教室)

- ・病院の医師や地域の方(僧侶など)を講師とし、健康管理や生きがいについて考える場を提供しています。



甲賀はつらつ教室。この日は地域の僧侶の話でした。

○地域の交通安全運動、声掛け運動への参加

- ・毎月0のつく日の朝に街頭活動をし、特に「交通安全ゼロの日」の10日には、地元住民の方々と共に行います。
- ・地元の方々にあいさつをしたり、話をしたりする良い機会になっています。



地域の委員の方と共に、交通安全運動にも参加

○病院訪問、介護体験の受け入れ

- ・幼稚園児・小学生・中学生・高校生を積極的に受け入れ、医療について考える機会を提供しています。

○環境美化

- ・毎月1回、病院周辺のゴミ拾いや雑草取りを職員ボランティアで実施し、きれいな地域づくりに参画しています。

○多様な職員研修

- ・業務に必要な技術だけではなく、接遇研修をはじめ、医療以外の分野の研修や講演会に積極的に参加する機会を与え、広い視野と高い人間性をもった職員の育成に努めています。

「職場における人づくり」は、どんなところにポイントをおいているのですか？

○職員ひとりひとりが認められ、大切にされているという思いが、患者さんへの十分な医療の提供、ひいては家庭生活の充実、地域における人づくりへの参画につながると考えています。

【甲賀病院における人づくり】

- ・人間観を培うことが、よい仕事につながる
- ・労働環境を整え、仕事も家庭も大切に
- ・地域社会とのかかわりを深める

○子どもがどう生きているかは、自分たち大人がどう生きてきたかを反映しています。つまり、子どもの将来は、大人がこれからどう生きていくかにかかっています。わたしたち職員も年を追うごとに人間観を深め、次世代の人づくりに関わっていかないと、自分たちの未来はないと考え、看護師等の研修においても、人間観の育成を念頭において行っています。



【甲賀病院の職員の皆さんからいただいた、人づくりハンドブックの感想】

県発行の「人づくりハンドブック」を読んだ、甲賀病院の職員の皆さんから、55件に及ぶ感想文をいただきました。一部をここで紹介します。このように、県内の各地で人づくりが話題になり、何らかの行動につながることを県の願いです。

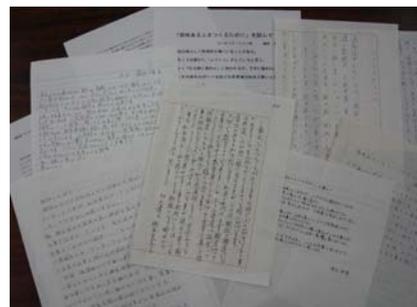
○家庭教育とは、家族の会話と三度の食事です。学校教育とは勉学とは別に、教師や友人との人間関係を構築する場です。社会とは、人との交流を大切にし、困難にも立ち向かう自分を養成する場です。(M・Sさん)

○無差別殺人事件や食品偽装事件などを見るにつけ、日本の将来を憂う気持ちでいっぱいになります。わたしたちは、何を「ものさし」に何を信じて生きていけばいいのかさえ見失いそうになっています。そんな世の中にあっても、やはり、何かを決断する時最後に照らすのは「親の教え」や「働く親の姿」です。私自身が「意味ある人」になれるよう、偽らず、ごまかさず、正しいことが当たり前でできる人間でありたいと思います。(K・Tさん)

○自分を見ていてくれる人がいる、認めてくれる人がいる、そのことは大人になっても自信へとつながり、やる気を起こしてくれます。個性を伸ばしてゆく大切さ、そばに寄りそってくれる人がいることは大事なことだと思います。(K・Mさん)

○県が取り組んでいる「意味ある人」づくり、しつけの静岡方式はまさに共感するものです。子育ては悩みとの戦いであり、育てる側の人となりが問われているのだと思います。すべては人としての基本を大切にし、人としてあるべき姿を求めていくための日々の鍛錬なのだ改めて感じます。(K・Nさん)

○「大事にされた子は優しく強い」と冊子にも明記してある。大事にすることのひとつの表現手段として、私は「ブラストローク」に心掛けている。・・・毎日ひとつ相手の何かを認め、口に出して褒めてみることで、叱ることの何倍もやる気は湧いてくるようにも思う。・・・結構難儀なことではあるが、これが「大事にする」ことの本当の意味かと思う。(H・Hさん)



寄せられた感想文

〈学校における人づくり〉

「立ち居振る舞い」を学ぶ授業 ～「茶道」「華道」の時間～

◆焼津高等学校

・創立 106 年の女子校。県内の私立高校では 2 番目という古い伝統を誇る。平成 13 年には、「女子総合学科」を開設。約 80 の選択科目を用意している。

▼平成 13 年、焼津高校が新しい教育システムとして総合学科を開設した時、伝統を誇る女子校として、女性としてのたしなみをしっかりと身につけさせたいという願いから必修科目に位置付けたのが、日本の伝統文化である「茶華道」です。入学時に茶道又は華道を選択し、週 1 時間の授業を 3 年間受けます。茶華道の授業を通じた人づくりについて、校長の久保山隆敏先生、茶華道の講師の先生方にうかがいました。



久保山隆敏校長

どのように授業を行っているのですか？

- 茶道や華道は、卒業生の中にも師匠として教室を開いている方がたくさんいます。美しい立ち居振る舞いを身につけるためにも、地域で活躍する一流の講師を招き、「お稽古」としての指導をお願いしています。
- どちらの授業も、相手をもてなす心や思いやりの心を育てることが目的ですから、技術以前の基本的な教えとして、次のことを徹底しています。
 - ・身だしなみを整えて作法室に入る
 - ・あいさつをきちんとする
 - ・道具を大切に扱う
 - ・次の時間に作法室を使う生徒のために整理整頓をする
- 毎回、季節にあった和菓子や花を用意します。年間で 35 回授業を行いますので、生徒はいろいろな和菓子や花を目にすることで、四季を味わう心が自然と育まれていきます。
- 茶道・華道ともに、卒業時には各流派の免状を与えます。

〈茶道（表千家）の授業〉

○毎時間、ひとりの生徒がお点前を披露し、他の生徒にお茶を入れます。15 人の生徒が受講しているので、平均して年間に 2 回お点前を行うこととなります。お茶をたてる回数が少ないので、作法の指導は基本的なものにとどめ、「お客様に美味しいお茶をたてよう」



正座して礼をしてから座敷に上がり、床の間の前、釜の前で同様の礼を行い、このように並びます。5 人の膝頭を揃えるよう指導を受けていました。



お茶を点てる生徒が座る位置について講師の先生が説明しています。一つ一つのしぐさにこめられた意味についても話します。

という気持ちを持ってお点前に臨むことを重視しています。（講師の松永先生談）

〈華道（小原流）の授業〉

- 用意した花（この日はぜんまい、菜の花、スイートピー）や配置の仕方について説明したあと、各生徒が手本を見ながら花を生けます。できあがったら講師がアドバイスをします。最後の 10 分で、その日の生け花をノートにスケッチし、先生が説明したことや自分の感想をまとめます。
- 技術的なことだけでなく、「切られた花が息を吹き返し、1 日でも長く見る人の心を癒すように

花を大事にする」という花を慈しむ心や、いけばなと季節や行事との関わりを大切にする態度を養いたいと思って取り組んでいます。(講師の石川先生談)



講師の先生がポイントを説明した後、見る人の視線を考えながら、自分で花を生けます。



花を生けた後は、毎回このように講師がひとりひとりチェックをしてくれます。



毎回、授業の最後には花の生け方や完成したときの思いをノートに記します。3年間のノートは大きな財産です。

華道の授業を受けている生徒の皆さんに授業の感想を伺いました。

- 季節の花がわかるようになり、街のあちこちに咲いている花や飾ってある花を立ち止まって見ることも多くなりました。花への興味が高まったと感じます。
- 授業で使った花を家に持ち帰り、玄関などに飾っています。家族も大変喜んでくれます。
- 毎時間、自分の作品を必ず先生が見て、アドバイスをくださるのがうれしいです。どのように生けたら花が美しく見えるかを常に意識するようになりました。授業が楽しいです。

読者の皆さんにメッセージをお願いします。

- 1年次の茶道の授業では、1時間正座を続けられない生徒や抹茶が苦くて飲めないという生徒がいますが、しばらくすると、何も言わなくてもはきものをそろえて座敷に上がり、背筋を伸ばして正座を続けるようになります。教える側もすがすがしい気持ちになるものです。また、美容やブライダルに関係した業界に就職した卒業生からは、華道の授業で学んだことが仕事に生きているという話を聞きました。一輪挿しひとつあしらうにしても、センスの良さが評価されるようです。3年間で着実に美しい立ち居振る舞いが身につけていることを感じます。
- お茶を点てるということは、お客様を迎え、一服の茶を差し上げて「おいしい」と言っていたために自分ができる精一杯の努力をすることです。花を生けることも同じことです。茶華道の授業を通して育まれるもてなしの心、思いやりの心は、社会に出てからも対人関係の基礎になるものと思っています。



【 人づくり百年の計委員会提言との関連 】

☆提言では、家庭でのしつけの柱のひとつとして「美しく歩こう」を提案しています。ここでの「歩く」という言葉は、人間らしい立ち居振る舞いの象徴として用いています。
☆今回取り上げた茶華道の中には、美しい立ち居振る舞いの要素がいっぱい詰まっています。美しい所作は「思いやりのある人」、ひいては「意味ある人」につながっていきます。ぜひ、家庭・学校・職場などで「美しい立ち居振る舞い」とは何かを考えてみましょう。

資料編

○人づくりちょっといい話

○静岡県の人づくり

『意味ある人』を体現した人

- 『意味ある人』を体現した、素晴らしい歌人をご紹介します。
- 昭和4年生まれの人、鳥海昭子さんという方です。山形県の鳥海山の山麓に11人兄弟の長女として生まれました。農業実習の農園で働いている時に、長野県の歌人の歌をラジオで聴き、「私の気持ちと同じだ。これだったらおらにもできる」と思って勉強します。暇を見て人に本を借りたり図書館に行ったりして、与謝野晶子と石川啄木に憧れるんですね。農園にいたのでは歌の世界に生きることはできないと考え、父親に「家を出たい」と言うと、お父さんは返事をしません。父親との間に10日間の無言戦争をして、とうとう夜密かに家出をしてしまいます。この日、3月1日を「家出記念日」と名付けているんですね。
- 「忍従の 角度に誰も 背を曲げて 吹雪の中の 野道を生きぬ」「石垣の 石の一つが 母に似て 見つめていると 自分でもある」……こういう歌をお作りになっています。
- 東京に出て養護施設の洗濯婦になり、23歳年上の男性と結婚します。自身が継母に育てられ、そのお母さんが実によくしてくれた。あんまり素敵な継母なので「私もあんな継母になりたい」と、5人の子連れの人と平気で結婚してしまうんです。ご自分は養護施設の洗濯婦として26年間も働きます。いよいよ退職の年齢がきて「さあ、これから」という時に糖尿病であることが分かります。
- もう目の前は真っ暗です。身を粉にして働いてきて、5人の継子に対しても、自分が恩を受けた継母以上の継母になったつもりでやってきた。そろそろ人生の幕が下りる時に神様がくださったのが糖尿病なんですね。自殺を考えます。その時の歌がすごいんです。「謝りたい 詫びたい人の 居る故に 今死ぬことは 許されない」という。結局、それで頑張るのですが、何が支えになったかという「故郷と貧乏と子供。この3つが私を支えてくれた」と彼女は言います。だから「糖尿病になっても、それも考えてみれば貧乏の中に入ってしまう。この糖尿病と戦って勝とうとする意志が自分の命を支えてくれたんだ」と思うんですね。
- 糖尿病は食事療法が大変ですね。入院すると、長男が計量カップと計量スプーンを買ってきます。「お母さん、買って来たよ。この通りにやるんだよ」と言って枕元に置きますね。「ありがとうね」と言うと、この長男がいい長男で「一人だと思ふなよ。一人だと思ふから死が怖いんだ」と言って帰っていくというんですよ。こういう長男を育てた母親の背中というのが、あるように思います。
- 鳥海さんは、歌を作るために洗濯婦を26年間やってきて、結局、女流歌人として成功してしまうんです。自分で歩いた跡がそのまま道になってしまうんですね。これが『意味ある人』ということなんです。何も難しいことではないんですね。

草柳大蔵著「午前8時のメッセージ99話～意味ある人をつくるために～」(静新新書・平成21年発行)より

『意味ある人』になりにくい状況

- 『意味ある人』って何ですか? という質問をたくさんいただきます。素晴らしい研究をしているとか、多くの人を救ったとか、そういう風にお取りになっている方が多いのですが、平凡な人にも「意味ある人」「意味ある暮らし」をしている方がいらっしゃるんですよ。
- 実は、河井寛次郎さんという著名な陶芸家が「道を歩く人。歩いた跡が道になる人」という言葉を残しています。河井さんは日本の民芸運動を始められた方の一人ですが「他人が既につけた道を間違いないように歩いて行く人がいる。一方、自分の発想、理念、理想を実現したいがために、少しは貧乏をしても、女房子どもを泣かせても、歩いているうちに見事にその人の歩いた跡が道になる人。それが本物だ」とおっしゃっています。
- 「意味のある人」とは、道を歩く人。もう既に大道になっている道を上手に歩いて行く人ではなくて、歩いて行った跡が道になる人。そういう人を目指しています。ところが、今なかなか「意味ある人」になりにくい状況があるのです。
- 戦前まで、鹿児島県には若衆宿というものがあって、17、8歳の成年が先輩になって宿の長になり12、3歳までの男の子を集めて、読み書きそろばんを教えたり、ご飯の食べ方や礼儀作法、女性の口説き方まで教えたりして、いわゆる一人前の男に育てました。鹿児島県だけではなくて、名前が違うだけで日本の各地にもありました。その中で上下関係とか規律とか秩序というものを教え、生きる方法というものを教えたんですね。
- しかし、戦後は上下関係、秩序、規律といったものがなくなってしまった。脳の発達の面でも暗記ばかりになってしまいました。さらに、家庭の中に生まれた三つの囲み —— 一つは母親の過保護の囲み、二つ目は子どもの頃から個室に入れるという壁の囲み、三番目は進学塾のような囲み、の中で子どもが育つようになった。ということは、異質の人と交わる、人間関係を多様に結ぶという習慣がなくなったということです。大人になって社会に出ても異質の情報への処し方を知らないんです。ですから、人間関係をなんとかして厚い社会にしなくてははいけない。幼児成熟、いわゆる子どもの形をした大人。こうした現象がたくさん出てしまった社会を早く直したいなと思います。
- 私事で恐縮ですが、社会党の代議士だった加藤シヅエさんから寒中見舞いを頂戴したんです。今、104歳です。その文章の明晰なこと。「今の日本は進歩と無気力が同居しています。だけど本当に無気力だろうか。人々がささやかなことに込められている感動的な話や振り舞いについて知らないからじゃないか。その感動を呼び起こすことによって、日本は進歩の芽を育てていくことができるんじゃないか」という内容です。その文面を思い出しながら、人づくり推進員の報告会に身を置いて「静岡県は行けるぞ!」という感を強くしました。

草柳大蔵著「午前8時のメッセージ99話～意味ある人をつくるために～」(静新新書・平成21年発行)より

人を浴びて人となる

- 今日は5月13日ですが、ちょうど1ヶ月前の4月13日に、株式会社日管の社長さんで、浜松の名経営者と言われた三輪信一さんという方が亡くなりました。86歳でした。浜松近辺はもちろん、日本全国でも知られている方です。というのは、「躰の日管」という面白い看板をビルに掲げていらっやって、実際に社員に対する躰をきちんとなさっていたんですね。
- それは、箸の上げ下ろしや歩き方、返事の仕方といった、社会人としての躰というよりも、どうやって仕事の中で自分を生かすか、ということのための躰です。自分を生かせば、人生がそれだけ楽しくなる。三輪さんは、一貫してずっと「躰の日管」でやっていらっやって、大変な人格者だという印象があります。何度もお目に掛かりましたが、教えられることがたくさんありました。
- 三輪さんは、「この本を人に読んでもらいたい。自分だけが読んで感動したのではもったいない」とお考えになると、ご自分のポケットマネーで本を百冊も二百冊もお買いになって、方々の知人にお分けになっているんですよ。私も十冊ほど頂きました。
- 三輪さんが、日本生産性本部から講演を頼まれたとき、自分みたいな人間がどうして日本中の経営者に講演ができるだろうか、と思われまして、禊をするつもりで、当時の山口県の長府製作所の尊敬する社長さんのところへ、浜松からわざわざ教えを請いに行かれました。その社長さんがいろいろなことを教えてくださいますが、日常的に非常に身を慎まれる方で、会社の車に乗ってお料理屋などに行くと、「運転手さんを待たせるのはかわいそうだ。そういうことを日本中の社長がやっているけれど、運転手の身になったことがあるのだろうか？」というお話をされるんですね。
- 三輪さんはとても厳しい方かと思ったら、しょっちゅう人に会って、勉強していらっやる。そのことを「人は人を浴びて人となる」とひと言でおっしゃるんです。教育、あるいは人づくりとは、こういうことなんですね。
- これからはぜひ地域社会で、あるいは家庭同士で、子どもたちになるべく人を浴びるような機会をつくってやってほしいと思うんです。三輪さんのように本をあげるということは、もらった人がその本を読むことによって、その本を書いた人の人格を浴びることになるんですね。水掛け遊びというものがありますが、人格の水掛け遊びみたいなものをしてみてはどうでしょうか。

草柳大蔵著「午前8時のメッセージ99話～意味ある人をつくるために～」(静新新書・平成21年発行)より

子どもは外で遊んで、汗をかいて、ボタンと眠る

- 5月はハイティーン期の犯罪が目立ちました。「どうしてあの子が」と戸惑うことも多いのです。10代の子がキレる問題にいろいろな面から討議をされていますが、共通項のようなものはありません。にもかかわらず、現代の社会はせつがちで、「教育に問題がある」「家庭に問題がある」などと単純な犯人探しをする傾向があります。そうではなく、今回は「もう少し腰を落として落ち着いて考えてみよう」と提案したいと思います。
- 実は、静岡県が中心となって「人づくり百年の計委員会」をつくり、私もその会長として2年数ヶ月に渡って17人の専門の先生たちと討議を交わし、話し合いを進めながら一つの提案書を作りました。その会合の中で、日本体育大学大学院教授の正木健雄先生が「今の子ども、ことにキレやすい子は脳の前頭葉がよく発達していない」と衝撃的な指摘をされました。
- 前頭葉はおでこの真ん中くらいにある脳の部分で、昔からカツとなる事を「頭に血が上る」と言います。その頭に上る血流をダムの水門のように調節できる器官なんですね。
- 正木先生らは脳前頭葉の活動の強さの特性がどのように変化しているか10年ごとに調査してられました。その研究を少し紹介しましょう。
- 普通の発達の順序は、幼児では「興奮」の働きも「抑制」の働きもともに強くありませんが、小学校に入ると「興奮」の働きが強くなって抑えのきかない子どもが多くなり、高学年になると「抑制」の働きも強くなって両者の働きのバランスが取れ、両者の切り換えもよくなるという「大人」型に発達していくのだそうです。
- ところが近年は「興奮」の働きが強くなってくるとても遅くなっており、小学校高学年や中学校で最も多くなるというように発達の遅れがみられます。これまではほとんどみられなかったことですが、「興奮」より「抑制」の方が先に強くなる、という発達の歪みもみられます。いつまでたっても発達しないとか、逆戻りして幼稚化するといった発達の停滞もみられると報告されています。つまり、「抑制」も「興奮」も異常なのです。
- 正木先生は、この変化をくいとめるため、幼児から小学生の時期に、全身を使うような遊びを思い切りさせる熱中体験をいっぱいさせて「興奮」の強さを順調に発達させていくことが課題だとしています。また、多くの子どものみられる「体温調節機能」の発達不全や「自律神経」の調節不良に対しても、子どもらしく毎日1回汗をかくくらい外で元気に遊び、夜はボタン・キューと早く眠る生活を取り戻すことを提案しています。いかがでしょうか。

草柳大蔵著「午前8時のメッセージ99話～意味ある人をつくるために～」(静新新書・平成21年発行)より

踏み込んで引っ張り出す教育

- 今、静岡県では公立学校の教職員や教委関係者、教員OBが核となって、「地域の青少年声掛け運動」が実施されています。この運動は「美しい未来のために」と題された青少年健全育成主要プロジェクトとして始められたもので、「美しい未来のために」、健やかな子どもたちを育てるために、具体的なプランとして声を掛けあおうというんですね。
- 考えてみると、これは大変なことです。最初のうちはお互いに恥ずかしがって、殊に声をかけられた方は、「うるさいな」とか「余計なお世話」とすねてみせると言うんですよ。でも、そう言われようが言われまいが、声を掛けるということは相手の心を開くこと、必ず分かってくれることだという自信をもって、繰り返し繰り返しみんなでやることによって、声を掛けずに済むような子どもたちが必ず増えていくと思います。
- 実践が伴わなくては教育ではありません。教壇と机があるところだけが教育の場ではないのです。生きていくこと自身が教育なんですよ。鳥や花から教わることもあります。しかし最も近いのは、お父さんお母さんから教わることであり、隣のおじさんお婆さんから教わることであり、見ず知らずの人でも自分に声を掛けてくれた人から教わった言葉、それも私は教育なんだと思うんです。
- 「教育」を意味する「education」という言葉があります。「引っ張り出す」という意味だといわれてきましたが、もう一つ「踏み込む」という意味もあります。よくよく考えたらそうですね。踏み込まなきゃ引っ張り出せないじゃないですか。踏み込まないで何を引っ張り出そうというんですか？
- 声を掛けて、「うるさいな」と言う子もいるだろうし、「うん、わかったよ」と言う子もいるでしょう。あるいは、声を掛けてくれたおじさんなりお婆さんなりがとても感じがよかったので、「ああ、僕一人じゃないんだな。だれかがこうやって見ててくれるんだな」と思う子もいるんだろうと思うんですね。
- 子どもの心、若い人たちの心の中には、「本当はこうしたいんだよ。でも恥ずかしいからできないんだ」とか「うちの親が嫌だからできないんだ」といった気持ちがあると思います。それを、声を掛けることで踏み込んでいって、そこから引っ張り出す。「さあ、立って歩いてごらん」。これが大切なのではないのでしょうか。
- でも人間って誰でもテレ屋じゃないですか。子どもたちにだって「君、どうしたの」って声を掛けられない。どうです、「おばあさんもさあ、あんたたちのころにはワルだったなあ」って、子どもの方から踏み込める心をひらいてみては。

草柳大蔵著「午前8時のメッセージ99話～意味ある人をつくるために～」(静新新書・平成21年発行)より

声掛けの効用

- 今の家庭の中で一番聞かれるのは、お母さんが何かを言う、お父さんが何かを言う。うるせえなあ、それだけなんですね。(中略)「どうしたの？今の子」と言うけれど、それよりもその子たちの「心の土壌」がどうしてそういうふう勝手に出来てしまったのだろうか。そのことの方が問題だろうと思うのです。
- 就職試験でも、茶髪でピアスなんかしている男の子がいたら、まあ、サッカー選手なら入れるけれど、そうでない場合は、どこの会社の面接でも、お前、その髪、何とかしろとか、耳輪はずせよ、アフリカじゃあるまいしとか、そう言われます。
- ところが橋本久義さんという通産省の役人がいましたね。非常に面白い人です。 casting課長になった時に、彼は役所と交渉して、「毎週木曜日だけ、一日自由にさせてください」と言って、彼は役所の車を使わないで、自分の車で、まず東京都内の金型を作っているところ、 castingをやっているところ、そういう工場を回って歩くのです。もう二千工場くらい全国を回って歩いた男です。
- それでわかったことは、町工場に行くと、茶髪やピアスはざらにいる。それで彼らに「お前、どうして3Kと言われている、こんな暗い、汚い、臭いところで働いているんだ」と聞くと、「あの、先輩がいるからね」と言うのだそうです。
- 先輩がどうしたんだというと、前に一緒にオートバイぶっ飛ばしたり、ディスコで踊ったり、その遊び仲間だった先輩が町工場で働くようになった。それで顔を見せなくなったため、3ヵ月くらいして「また一緒に遊ぼうよ」と工場を訪ねると、先輩は黙々と働いていた。茶髪で、もう耳輪はずしちゃって。

「先輩、変わったんですね」

「うん、変わったか。俺、変わったかもしれない」

「どうして先輩、変わったんですか」

「ここの親父さんがいいんだよな。朝、『おはよう』と向こうから声をかけてくれるんだ。それで『何かわからないこと、あるかい』って教えてくれるんだよな。お前な、声かけられてな、教えてくれるとな、ちょっと人間、動けなくなるぞ。で、俺、こうなっちゃったんだよ。でも、俺、ようやく人間が生きるって、どういうことかわかったよ」

「それじゃ先輩、俺も入れてください」という次第で、その町工場には、ずっと茶髪の系列が出来ちゃったのです。
- つまり、あいつは茶髪だ、耳輪だというと、もうそれだけで自己完結的な存在のように、われわれは誤解してしまうのですが、実は彼らを変えさせる情報を、何も送っていなかったということです。それが先輩の「親父さんが声をかけてくれるんだよ」の一言で、後輩の心までが動いたのです。
- 声をかけてくれるということが、いかに大切なことかです。挨拶という言葉、「挨拶」というのは、心を開くという意味です。下の「挨拶」の語源は相手に迫るという意味。だから、「おはよう」「ご飯食べたか」「元気か」とか、そういう挨拶は心を開いて、相手に迫る。つまり、お互いに変わる情報をそこから交換し合うということです。

静岡県「人づくりの道標 草柳大蔵先生のメッセージ」より

挨拶は心の定期預金

- 中村諭先生という方がいらっしゃいます。この先生は教員生活31年のうちの23年間を、崩壊寸前の学校ばかりに教諭、教頭、学校長として派遣されました。中村先生は、「組織や集団の秩序を回復したいと思ったら、一番最初にするのは挨拶じゃないか。当たり前のことだ。」とあって、学校で生徒の顔を見るたびに、「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」「元気？」などと言いつけるんですね。
- 最初は、生徒の方が変な顔をして、そっぽを向いて足早に去っていきます。そのときに「こら、待て。」おまえは何で挨拶をしないんだ？」と言ってはいけないというんですね。そうではなく、それでもニコニコして「おはようございます」と言いつける。「挨拶は心の定期預金だ」と言うんですね。「必ず相手の心に積み重なっていく。相手は気持ちの負担を感じて、小さい声で『おはようございます』と応えるようになる。」というんです。
- 中村先生の赴任された学校は、宝塚市内の中学校で、この20年間の犯罪件数が、毎年市内でナンバーワンという学校だったんです。それが、挨拶を続けていくことですっかり穏やかな学校になって、よその人が校門に入って来ても、「こんにちは」と生徒の方が挨拶をするような学校になったといます。
- 中村先生に転任の時期が来て、いよいよ学校を去ることになりました。最後の卒業式で、代表が謝恩の辞を述べるのですが、途中で自分が感極まってしまって、全くのアドリブになってしまうんですね。少し読んでみます。「数え切れないほど言い争いをして、先生には迷惑を掛けてしまいました。でも、それも俺の中ではめっちゃ良い思い出になりました。先生の方も『良い思い出ができた』ということにしておいてください。これからも、俺みたいな問題児が現れるかもしれないけど、挫けずに頑張ってください」と言うんですね。その後、今度は生徒会長が立ち上がって「僕たちの気持ちです。先生、どうぞ受け取ってください。」と言うんです。「何だろう？」と思って立っていると、ピアノの前に生徒が座って『仰げば尊し』を黙って弾き、学生の大合唱が始まった。もちろん、先生も生徒もボロボロ泣いてしまったそうです。(中略)「一波は動かす、四海の波」、ひとつの波が動けば、海の波は動くんですね。何もしないで、「言葉つきが乱暴だ」「すぐキレル」「危ない」というだけで、子どもたちに対して距離感を持ってしまう。それが一番の大きな問題なんです。なぜ大人が踏み込んでいかないのでしょうか。そうやって、分かってくれる子、つまり、お互いに心を交換できる子を増やしていくことによって、つっぱっていた子が、「つっぱっていてもつまんねえよな。」と、必ず応えてきます。根っからの悪い子なんていないんですよ。私はそこをもう一度考えてみたいという気がします。(後略)

草柳大蔵著「午前8時のメッセージ99話～意味ある人をつくるために～」(静新新書・平成21年発行)より

子どもを誉めるタイミング

- 私たちが教育を語るときに、その基本としてよく指摘されるのは、子どもの「つ」がつく年齢に物事を全部教えるということ（「つ」がつく年齢とは一つから九つですね。十歳になると駄目なんです。）「つ」がつく年齢に第1期の人格形成が行われるためですね。江戸時代もそうでした。この時代には三つで躰、五つで読み書き、七つでそろばんと言ったんですね。昔の人は偉いもんですね。
- その「つ」のつく年齢で、一番子どもと接している時間が長いのは、やっぱりお母さんですよ。お母さんが育児を担当される場面がどのご家庭でも多いのですが、私がドキッとする言葉があるんですね。「育児は育自である」という言葉です。「自分を育てながら子どもを育てなければ子どもは育たないよ」という意味合いです。実際に教育問題に取り組んでもう三年になりますが、ようやく分かってきました。なるほど、私自分が深く教育を勉強しなければ、教育論なんてやってはいけないということが、勉強をするほど分かってくる。「育てる人に育ってもらおう」ということが大切なんですね。面白いことに、お母さんが育っていくと、子どもをどういう風に育てたらいいかがお母さんなりに分かってくるんですね。例えば、長男を育てる場合と長女を育てる場合、あるいは長男を育てる場合と次男を育てる場合。同じじゃないことにお母さんが気が付く。それも育児なんです。
- 例えば「誉めて育てる」とよく言いますね。いろいろな書物を読んだり成功例を聞いたりしますと、みなさん張り切ります。「庭を掃きなさい」「ペットにえさをやりなさい」と命令して、子どもがちゃんとやると「よくできた、よくやったね」と誉めるでしょう？その誉めた言葉は、子どもにはそれほど影響はしないんだそうです。親が言わないのに子どもが実行したことを見て「偉かったね、よく気が付いたね、よくできたじゃない」と言われると、これが子どもの向上心に火を点けたことになるんですね。
- 課題を与えてそれが全部できたことに対して、誉めないよりは誉める方がいいに決まっていますが、ベタ誉めはしないほうがいい。課題を与えないのに子どもが自ら課題を発見して、そして自分の力で自ら成し遂げた時の「よくやったね」という一言。これが子どもの心を開くというんですね。
- ある新聞にこんな投書がありました。小学校五年生のダウン症の子に周りのクラスメイトがとても優しいんです。運動会があって、かけっこをしたらビリなんですけど最後まで走った。そして翌日クラスメイトからメッセージが来た。内容は「運動会で止まらずに百メートルをよく走ったね、偉かったね」というメッセージなんです。このメッセージをその子はギュッと手の中に握って、涙を流したんだそうです。心が開かれた一時ですね。

草柳大蔵著「午前8時のメッセージ99話～意味ある人をつくるために～」(静新新書・平成21年発行)より

お母さんと赤ちゃんの目の距離

- アマラとカマラの話をご存じでしょうか。狼に育てられたインドの姉妹ですね。アマラが7歳、カマラが2歳です。狼に育てられた結果、彼女たちは肩や胸に長い毛が生えて、四足で走って、話し声は「ウォーウォー」しか出せなかった。発見されて人間の社会に連れ戻して適応させようとしたのですが、とうとう適応できないまま亡くなってしまいう実話です。
- このように、人間は、環境に見事に適応してしまう能力を持っているわけです。人間から見れば「アマラとカマラは何と悲惨な運命だろう」と思ってしまうでしょうが、彼女たちの立場に立ってみれば、見事に適応して、狼の仲間の中で暮していたということですね。人間には社会に適応するだけでなく、自然に適応するという素晴らしい能力があります。その力が環境にちゃんと折り合いをつけていることを得てして忘れて、無理矢理に自分に努力を強いたり、「環境が悪いから、自分は何も才能が発揮できない」と決め付けたりするんです。
- 実際は人間の体は良くできているらしく、ある実験によれば、例えば、人間がベートーベンの音楽で心安さを感じるのは、周波の上と下を切った狭い幅の中だそうです。音階で言うと、高音部記号の五線の下のラから上のラの範囲。赤ちゃんは、中央のラで泣くそうです。すると、お母さんが「よしよし」とか「どうしたの？」とやって来ますね。お母さんはさっき言った一番人間として快い感じの音程で赤ちゃんに語りかけてるんだそうです。「あらあら、どうしたの？」と、赤ちゃんにとって一番快い音程で語りかけられると、赤ちゃんの体温がスーッと下がるそうです。
- 母親と赤ちゃんは、初めから命同士が相呼応するようになっているのでしょうか。おっぱいを飲ませる時に赤ちゃんを抱きますね。そして赤ちゃんが飲んでいて、ふっと乳首から口を離してお母さんの顔を見る。その時の目とお母さんの目の間の距離が大体、25センチから28センチ。お母さんの目というのは赤ちゃんにとって最初の情報なんですね。これが最も快い情報なんだそうです。ああやって、おっぱいを飲ませるのに抱いて乳を含ませる。赤ちゃんが泣いたら「あらあら、どうしたの？」と言って駆け寄る。実験や理論を全く知らなくても、自然に最適条件で母と子がお互いに命のやり取りをしているんですね。
- 今、静岡で人材開発の仕事をしております。何も難しいことではないんです。赤ちゃんとお母さんの目の距離です。それから、一番人間が快い音のラです。ラのところでは赤ちゃんは泣くということです。お母さんが「あらあら」と駆け寄ると赤ちゃんの体温が下がるということです。これ、命の話です。信じていこうではないですか。

草柳大蔵著「午前8時のメッセージ99話～意味ある人をつくるために～」(静新新書・平成21年発行)より

子どものゴールを考える

■ 若林繁太^{わかばやししげた}さんという大変な教育家がいらっしゃいました。高校の校長先生をお勤めになった方ですが、1985年に『教育よ、よみがえれ』（講談社）という本を出していらっしゃいます。その中に「子どもを非行にする十か条」というのがあるんです。この十か条を読むと、そのころから日本の教育は一斉に崩壊を始めたということが分かるんですね。読んでみます。（前掲書より抜粋）

- 1 子どもに学習を強いること。
- 2 夫婦喧嘩は派手にすること。
- 3 不平はたゆみなく主張すること。
- 4 子どもを徹底して大切にすること。
- 5 夫婦は教育理念を違えること。
- 6 子どもの要求は何でも聞き入れること。
- 7 子どもの人格を常に評価すること。
- 8 子どもは勝手に行動させること。
- 9 常に子どもを他人と比較すること。
- 10 流行に遅れない子どもにすること。

■ どうしてこの十か条にあてはまるようなことを、父親母親が言うようになったかという、やはり、子どもをどういう人間に育てるか、という子どものゴールを親が考えたことがないからなんですね。子どものゴールを考える。それが家庭教育の基本なのですね。

■ 第一は職分です。手に技を持つこと。「何か世の中に役に立つことをしたい」という子どもがいたら、その夢を叶えてやればいいんですよ。つまり、生きていくための技術なら何でもいいんです。問題は大学を出ることではないんですね。二番目は自己形成です。自己形成というのは、自分の意見を自分の言葉でハッキリと言えるような人間にすること。三番目は、他人に対する思いやりです。この職分と自己形成と他人に対する思いやり、この三つが家庭教育の基礎なんですね。

■ もっぱら学校教育の中で、進学体系の何番目に自分の子どもを当てはめるか、それがお父さんやお母さんの価値観だったのではないですか。ですから、大学に入ってしまうと、「もうゲームは終わった、競争は終わった」といって、急に子どもから無関心になっていく。子どもの方も「もう勉強しなくていいんだ。バンザイ！」というようなもので、ますます人格も能力も低下していく。こんなことを言われて怒っている親の多いことを祈ります。

草柳大蔵著「午前8時のメッセージ99話～意味ある人をつくるために～」(静新新書・平成21年発行)より

静岡県の人づくり

～ 意味ある人をつくるために ～

■「人づくり百年の計委員会」の設置・提言の提出

○静岡県では、21世紀の人づくりを考えるために、平成10年7月、故草柳大蔵氏を会長とする「人づくり百年の計委員会」を設置しました。委員会は討議を重ね、平成11年10月に「意味ある人をつくるために」と題した提言をまとめ知事に提出しました。

■提言ができた背景

〈世の中で何が問題になっているのでしょうか〉

- 人々の価値判断の歪みからさまざまな現象が生じています。
- 人間として生きていくために必要な、礼儀や倫理観、美意識などが小さな頃から身に付けられていない状況があります。
- 「人に迷惑をかけなければ、何をやってもいい」とか「まわりにいる人たちは自分が知らない人だから関係ない」などという感覚を持つ若者や子どもも目立ちます。
- 小・中学校でいじめや学級崩壊が起こったという話や、私語のため大学の授業が成り立たないなどの話も見聞きます。
- 私たちは、いつの間にか、子どものしつけや教育の責任を、「政治が悪い」「マスコミが悪い」「教育制度が悪い」と、自分以外のところで「犯人探し」をする癖がついていないのでしょうか。

〈どのように解消していけばいいのでしょうか〉

県民の皆さんが、人づくりについて共通の認識を持ち、身近なところから取り組む必要があります。

○人づくりの必要性は、誰もが認めることですが、その考え方や手法については、個人的な思い入れや様々な意見がある中で、社会としての共通の方向性を見出せないできました。そこで、「人づくり百年の計委員会」では、家庭、地域を含めた社会全体の問題として、幅広く検討、研究を重ねることにより、県民の皆さんが共通に認識できる「人づくり」を展開していきたいと考えました。

■提言「意味ある人をつくるために」の概要

「意味ある人」とは

○「意味ある人」とは、次の3条件を備えた人のことを言います。

・何かができる人

自分の個性に自信を持ち、自らの目標に向かって主体的に活動している人

・精神的に自立している人

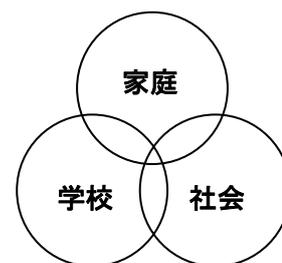
自分らしく生きるためには、自分の考えを持ち、自らの行動に責任を持つと認識している人

・思いやりのある人

多様な生き方を認め、他人の個性を尊敬できる人

■「意味ある人」をつくるためには

○人づくりの課題は、学校教育にとどまりません。**家庭・学校・社会**のそれぞれが教育空間として機能し、かつ3つの空間が連携して行うことが望まれます。提言では、「意味ある人」をつくるために、3つの分野で県民の皆さんや行政に具体的な提言をしています。



「人づくり」の教育空間

○故草柳大蔵氏（人づくり百年の計委員会会長）は、人づくりに関係した静岡県の地元のラジオ番組の中で、「**意味ある人**」について次のようにお話をされました

（前略）人間には、それぞれ「**福分**」というものがあります。手先が器用であったり、調整力があつたり、人よりいち早く結果が読めるとかイメージが描けるとか、絶対音の把握ができる、味覚なり嗅覚が発達している等々です。大工さんには大工さんの「福分」、一本釣りの漁師さんにも樹木の声を聞く樹木医さんにも「福分」がある。その「福分」で仕事をし、周囲の人から「うん、さすがだな。」と賞賛されたとき、さすがしさを味わうのです。（中略）

辛い時代です。つい、うつむき加減になるのも無理ありません。だからこそ、人間の持つ「福分」を認め合い、評価し合ってはどうか。子どもの持つ「福分」を発見し、社会性を持たせることに、家庭も学校も社会も一斉に手を伸ばしませんか。そうすることで、「意味ある人」ができるのです。**自分の考えを持ち、他人に思いやりがあり、自分の福分を生きる。これが意味ある人の内容です。**（後略）

子どもと家庭

礼儀作法を身に付けるためには、単に「きびしさ」だけを求めるのではなく、「美しい」という価値感(※)と関わるのが大切です。子どもの感性や知性を育てるために、家庭の子育て機能を可能な限り回復させましょう。提言では、「**しつけ**」の**静岡方式**を創り出せるよう、次の3つの柱を立てました。

※「美しい」と「感じる」ことが大切ということから、提言では、価値“感”表現しています。

美しく挨拶しよう

家族での挨拶は、子どもの安心感を生み、家族のきずなを増していきます。まず、大人から子どもへの美しい挨拶で、子どもの自尊心や人間らしい自我を育てていきましょう。

美しく歩こう

美しく歩こうは、“人間らしい立居振舞”のテーマです。まず、子どもの「身体運動的な知性」をふくらませるために大人が模範を示し、家族なりの「作法」を作り上げていきましょう。

美しく話そう

子どもが一人でテレビを見ているだけでは「言語的知性」の発達は期待できません。家庭の中で会話や読み聞かせなどにより、しっかりと「日本語」を身に付けさせ、自分の意見を表現する力をつけていきましょう。

子どもと学校

学校は地域と連携して、子どもに多くの体験をさせることが必要です。子どもの希望や夢をかなえるための水先案内人は先生です。先生が、子どもと真剣に向かい合うことによって、先生は頼もしい存在となり、子どもとの信頼関係が深まります。

きれいな学校

地域や大人が、街や地域をきれいにする姿勢を子どもたちに示していけば、子どもたちの意識が変わり、学校は地域のシンボルとして信頼されます。また、子どもたちの中で「自分たちの学校」という意識が育っていきます。

気持ちのいい子ども

自分に自信を持ち、目標に向かって主体的に活動することができ、感謝の気持ちを表す「ありがとう」が自然に言えるような「気持ちのいい子ども」を育てるため、子どもの年齢に応じた様々な「生き生きとした」体験機会を持つことが大切です。

頼もしい先生

子どもにとってわかる授業をする先生、心に残る先生がたくさん生まれることが望まれます。先生は、教育の重みや子どもの期待を理解し、自己研鑽に努め、子どもの可能性を伸ばす「頼もしい先生」になってほしいと願います。先生は「頼もしい先生」となって、個性や魅力のある子どもを育ててほしいと願います。

社会と人間

人はその生涯にわたって自分をつくり上げていきます。これからは、人が「生きていくところ」としての地域づくりが大切であり、その中で、人は自分をつくり、自分を生かし、また、他者から生かされていきます。社会の様々な人が手を取り合い、生き生きとした、しかも包容力のある社会を創り出していきましょう。

自分を磨く

「人づくり」は、一生にわたる長い道のりであります。地域の特性を生かし、「自分を磨く」基地として人生の再挑戦を支え、ともに学び、人との結びつきを深める社会人のための新しい大学を設置したらどうでしょう。

自然と生きる

自然とのふれあいを取り戻し、自然や環境を大事にする活動は人々の心を豊かにします。新しい大学は、地域・環境のキーステーションとなり、また、自然を通じての「癒し」が可能となり、自分を取り戻すことができるでしょう。

人と出会う

地域に伝えられてきた「ふるさとの伝承」を復興したり、また、人々を惹きつける伝統芸能やお祭りなどのイベントを通して、世代を越えた人々のつながりと教えあいを取り戻すことができ、人々を元気づけるでしょう。

提言を広め、家庭・学校・地域を手助けするために～人づくり推進員の活動

○「人づくり地域懇談会」の開催

県では、提言を県民の皆さんにわかりやすくお知らせし、家庭・学校・地域の手助けをするために、人づくり推進員を県内各地に派遣し、「人づくり地域懇談会」を開催しています。地域の小・中学校や幼稚園・保育園、公民館などを会場に、提言が生まれた背景や内容を説明したり、子育てや人づくりに関するアドバイスをしたりしています。家庭・学校・地域という3つの教育空間でよりよい子育て・人づくりができるよう、参加者とともに考え、人づくりの推進を図っています。

<懇談会のテーマ例>

- ・「子どもは光る原石～今 みがく時～」
- ・「子育てって誰がする?」
- ・「子育てのテキストは あなたの生き方」
- ・「もう一度、躰のことを見直そう」
- ・「地域で大人が子どもにできること」
- ・「子どものゴールを考えた躰」
- ・「子どもとしっかり向き合って」
- ・「あなたのお子さんが人とつながりあって豊かに、幸せに生きるために」 など

<懇談会参加者の感想>

- ・思わず、うなずく話ばかりでした。ドキッと話す話で、考えさせられました。
- ・心が温くなりました。お話にあったいくつかのことの中からできることから実践していきたいと思いました。
- ・当たり前のことができない世の中。自分にも思い当たるところがあります。まずは挨拶から改めねばと思いました。
- ・これからも楽しく子育てをしていきたい。そのことが「人づくり」の第一歩かなあとと思います。



写真はいずれも平成20年6月に磐田北幼稚園で行われた人づくり地域懇談会の様子です。

「人づくりハンドブック」をぜひお読みください！

「人づくり百年の計委員会」提言の内容の要点や、しつけや子育てのポイント（「子どもをのばす叱り方」「これだけは言うてはならない12の禁句」など）をまとめた冊子が「人づくりハンドブック」です。人づくり推進員が行う「人づくり地域懇談会」に用いられるこの冊子が、「子育ての参考書」としても注目されています。ご希望の方には何部でも無料で送りますので、県大学室まで連絡してください。（県大学室人づくり学術スタッフ 電話054-221-3304）



はばたく 静岡 国文祭

※第24回国民文化祭・しずおか2009

ふじのくに 高まる広がる 文化の波 平成21年10月24日(土) → 11月8日(日)

国民文化祭とは

音楽、演劇、美術、文芸、伝統芸能など、さまざまな文化・芸術活動を行う人や作品が全国から集まり発表し、それらを鑑賞できる「国内最大の文化イベント」です。

事業概要

【開会式・オープニングフェスティバル】

10月24日(土) グランシップ(静岡市)

【閉会式・グランドフィナーレ】

11月8日(日) エコパアリーナ(袋井市)

【シンポジウム 3事業】

【分野別フェスティバル 90事業】

* 県内各地で多彩な事業を展開します。



事業の詳細内容はホームページをご覧ください。「第24回国民文化祭」で検索

お問合せ 第24回国民文化祭静岡県実行委員会事務局(国民文化祭推進室) 054-221-2856、2369

富士山を世界文化遺産に!



↑《絹本着色富士曼茶羅図》

(富士山本宮浅間大社蔵)



今後、富士山の世界文化遺産としての価値を、「信仰」と「芸術性」の観点から証明していきます。

←横山大観《群青富士》

(県立美術館蔵)

【お問い合わせ先】

〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6 静岡県県民部世界遺産推進室

電話：054-221-3746 e-mail：sekai@pref.shizuoka.lg.jp



問い合わせ先

静岡県県民部大学室(人づくり学術スタッフ)

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

電話 054-221-3304

FAX 054-221-2905

E-mail daigaku@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.shizuoka.jp/kenmin/km-240a/>

(静岡県ホームページ(<http://www.pref.shizuoka.jp/>)から、
「教育・文化」→「生涯学習」→「静岡県の人づくり」の順にクリック)

「はばたく静岡国文祭」、10月24日開幕！

